

60018

教科書文庫

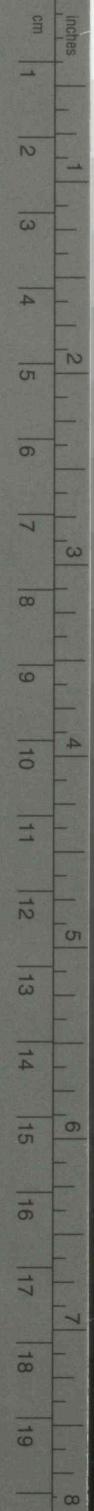
B
300
34-1950
20000
19829

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

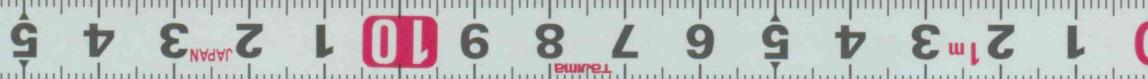
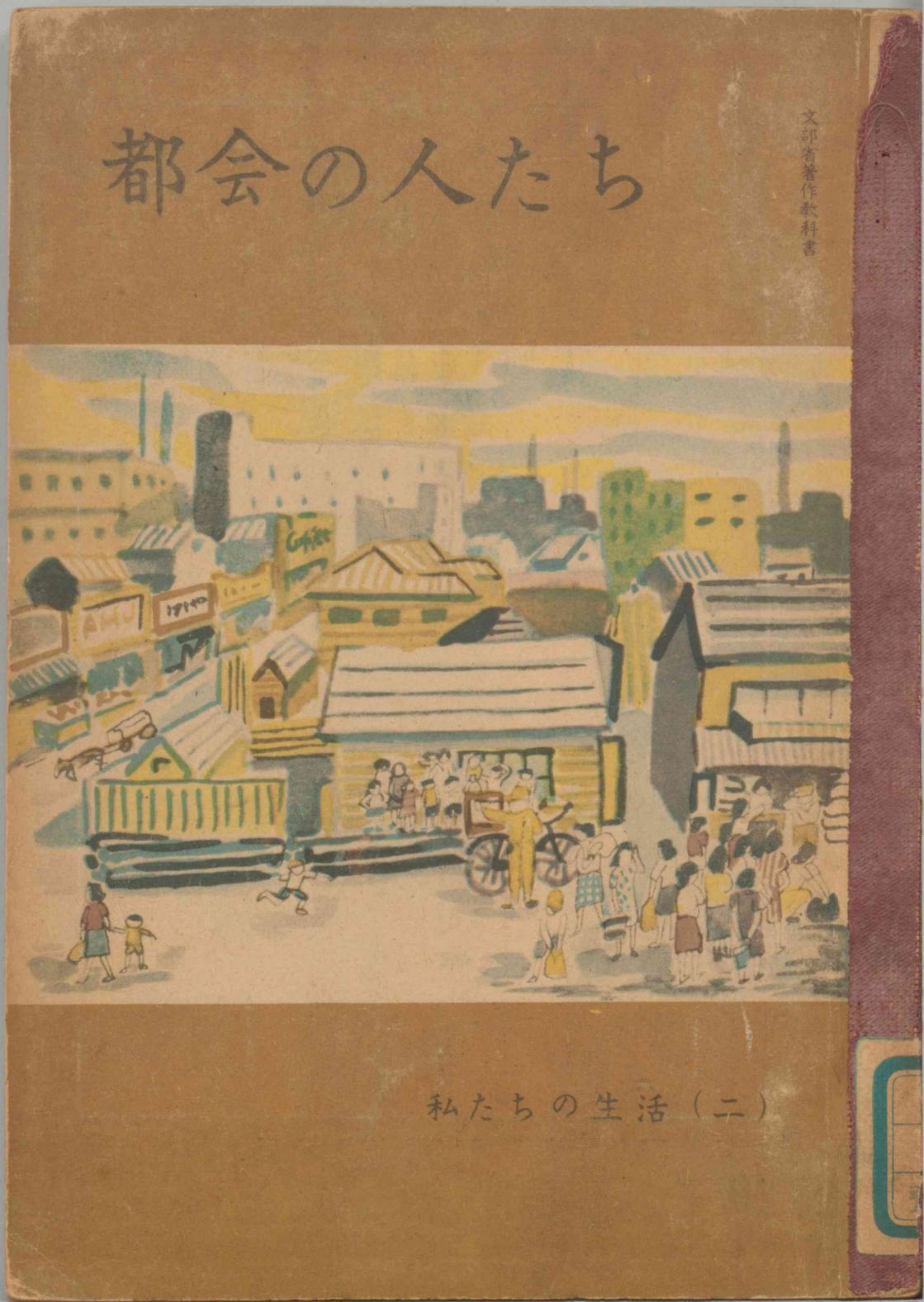
© Kodak, 2007 TM: Kodak



都会の人たち

文部省著作教科書

私たちの生活（二）



375.9
M014

もくじ

- 一、私の家 一
二、図書委員になつて 五
三、大きな病院 五
四、工場の見学 五
五、紡績工場 五
六、学校給食 五
七、ビルディングのしらべ 五
八、運動会 五
九、街頭録音 八
一〇、銀行の仕事 八
一一、都市の氣分 八
一二、お米の列車 八
一三、百貨店での買物 八
一四、これからの都市 八
(附)教師及び父兄の方へ 四
「私たちの生活」総索引 一

福島大學圖書印



資料室

福島大學
圖書印

一、私の家

月 日

じゅん子

私の家は、ちょっとふしぎな家です。おじさんはおとうさんの家だといわれるし、おとうさんは、おじさんの家を借りているのだといわれるのです。
もともとこの家は、今から一〇年ほどまえ、まだこのへんがいなかであまり家のたつていなかつたころに、おじさんがとなりの家といつしょに買われたものです。そのときおとうさんが自分で買いたいといわれたのに、おじさんが「そんなによい家ではないから、別の家を買いなさい。それまでは自由に使いなさい。」といつて、とめられたのです。
となりの家はへや数も多く、庭もかなり廣くてよい家です。おじさんたちが疎開したあと、ある会社の宿舍として貸したのですが、終戦後もそのままになつています。それで、疎開から帰ってきたおじさんたちは、私たちの家にいつしょに住んでいられるのです。となりの家は会社の宿舎なので、人数もふえたり、へつたりしていますが、私たち

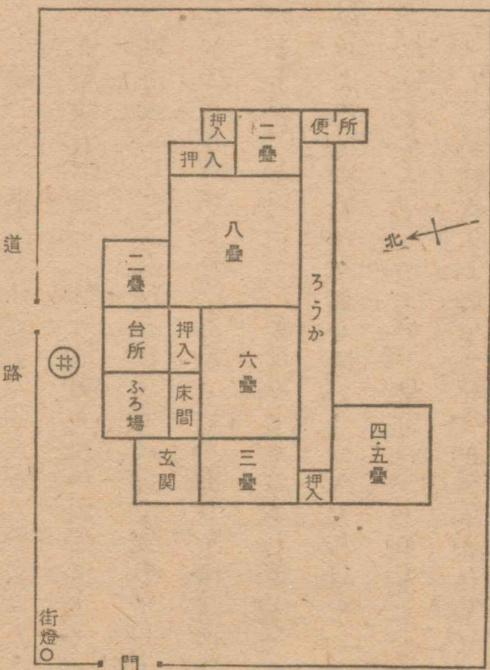
の家よりゆつくりしているようです。

よその人の話を聞くと、家のことで、ずいぶん争いが多いようです。友だちや親類がけんかをしている例はたくさんあります。弟さんがにいさんの家を借りていながら、

にいさんたちを同居させさせないという例もきました。

警察に争いをもつてくる人も多いそうです。

つついでおり、南がわの小さい庭のむこうにも家があつて、あまり明かるくはありません。三疊は玄関で、二疊は二つとも物置になっています。



私たちの家には九人住んでいます。おじさんおばさんに、いとこのかず子さん、とし子さん、道男さん、これだけで、六疊と四疊半を使っています。おとうさんおかあさんに、敬一といさんと私、この四人が八疊を使っています。とし子さんは中学一年、おにいさんは中学二年、私と道男さんが五年です。

朝と晩には、九人がそろつて六疊で食事をしますが、ときどき「まつたく満員電車のようだ。」といつて笑います。かず子さんは、夜は玄関の三疊で勉強したり、ねたりしていますが、ふいにベルがなるとおおさわぎです。かず子さんのおねえさんちか子さんがおよめにいかれるまでは、一〇人でしたから、なおたいへんでした。

おじさんは六六ですが、会社につとめていられます。おじさんは、どんなときにもおこつたことがありません。どのようなことでも、「それもよからう。」とさんせいしてくれます。まえからそうだったので、今でもわすれないとたずねてくる人がたくさんあります。夜はラジオをきいたり、おそらく本を読んだりなさいます。朝は早くおきて、近所を散歩なさいます。

おとうさんは五四で、まえにはほとんどの病氣をなさつたことがありませんでしたが、戦争中、お役所につとめていて学校の子どもの疎開のことでもりをして勤いたため、だいぶからだが弱くなられました。いそがしいときがつづいてつかれがはげしくなると、夜中に急にひきつけて、何もわからなくなってしまうのです。それで、うちじゅうでよく氣をつけて、あまりおつかれにならないように注意しています。

おとうさんも、ほとんどおこることはあります。まえには化学の先生でしたが、今はある中学校の校長です。小さなことでもよく考えて意見をいわれます。勉強のことをうかがうと、いつもにこにこしながら教えてくださいます。おとうさんのいちばんきらいなことはきょうだいげんかです。私がにいさんといいあらそいなどをすると、注意をなさいます。おとうさんは毎日満員の電車で、往復三時間もかかつて通勤されるので、夜はいちばんさきにねてしまわれます。

このあいだ、おとうさんのおのりになつた市内電車が石炭をつんだトラックと正面しようとつをしました。おとうさんはまんなかにのつていたので無事でしたが、両方の運

轉手さんと電車のまえの方にのつていた人が死にました。いきなりドシンと電車がとまるとき、のつていた人はみなしじょうぎだおしになり、バラバラッと屋根の上に何か落ちてきました。びっくりしてまえの方をみたら、まつくるなものがあり、運轉台はメチャメチャにこわれていたそうです。おとうさんは、トラックがむちやをしたのだろうといわれました。乗客のためにいつしじょうけんめい運轉をしていた運轉手さんやお客様が、アッという間に死んでしまつたことは、ほんとうに氣の毒だと、おとうさんはくりかえして話していられました。働き手を急にうしなつた運轉手さんのおうちでは、どんなに困ることでしょう。交通局や組合ができるだけのことをするとしても、十分とはいかなないだろうということです。おとうさんは、電車はやっぱりまんなかにのらなくてはいけないと、しみじみいわれましたが、私はおとうさんがまたそのようなあぶない目にあわれないといいがと思つて心配です。

おばさんは五六、おかあさんは五一で、ほんとうのきょうだいです。たいへんなのがよくて、炊事も、せんたくも、買物も、みな助けあつてやつていられますので、おかあ

さんがふたりいるようです。戦後はどの家にも、二家族も三家族もはいつていますが、私たちの家のように、台所をいつしょにしている家はあまりなさそうです。たべものやかかりのことになると、このごろはきょうだいでもうまくいかないことが多いようです。ふたりで道路のむこうがわのあき地の畑を、五〇坪ばかりたがやしていられます。おじさんもおとうさんも私たちもてつだいますが、おかあさんたちがいちばんねつしんです。

かず子さん、とし子さんをはじめ、みんなが掃除や後片付などのおてつだいをしますが、おかあさんがたは、朝早くから夜おそくまで、仕事をしていられます。「小さい子どももいないし、家も廣

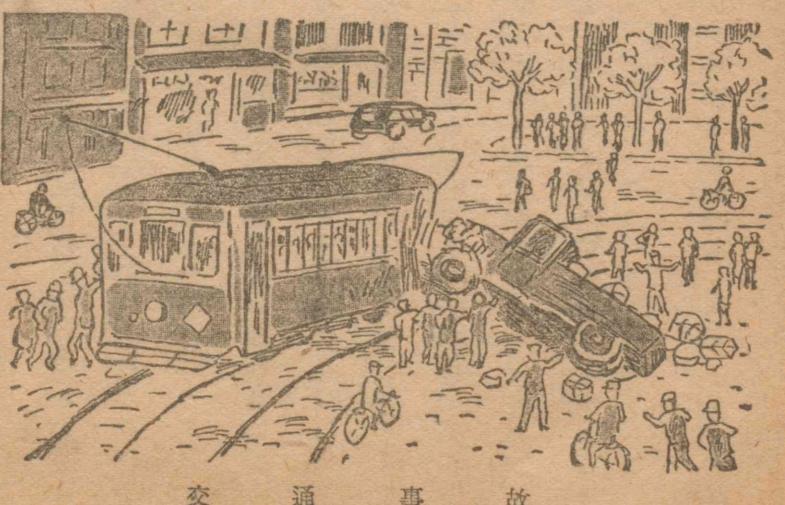
くないけれど、女の用事はきりがない。」といわれます。

たべものや着物のことなどは、すべておかあさんたちの考えできます。どんな代用食でも、どんなおべんとうでも、おじさんも、おとうさんも、だれもくじょうをいいません。

うちでは、どちらも荷物を焼きませんでしたから、戦災や引きあげの親類や知りあいの人たちに、だいぶ分けてあげました。それで今は、着物、とくに下着類やくつした・ふとん・しきふなどに困っています。おかあさんがたの夜の仕事は、そのつぐろいが大部分だともいえます。おばさんやおかあさんは、昔からなんでもたんねんに手入れをして、たいせつにとつておかれたので、今役にたつものがだいぶあります。

食糧もずいぶんたいせつに使っています。配給されるものは、種類や質がちがうことが多いので、それを区別して、しまつておいて使います。

予備のお米は、大きなガラスびんに入れて、虫のつかないようにしてあります。遅配がつづくと、目にみえてへつていき、心細くなります。お米の配給がきちんとあれば、



朝と晩はおかゆや代用食にして、少しづつお米をためていきます。配給の粉はさまざまですから、まぜて使います。豆などは、よいのやわるいのや、色のちがうのなどがまじつてくることがあります。そんなときは、より分けて使います。にえかたもちがうし、味もちがうからです。イーストをとつておいてパンをこねたり、代用食をつくつたりする苦心はよういではありません。野菜は家の畠からもとりますが、人数が多いので、配給のうまくいかないときには困ってしまいます。知りあいの農家まで分けてもらいにいくことも少なくありません。庭のすみにいておいたり、かわかしてとつておいたりしたものを使います。

ぬかや塩が不自由ですから、つけものもふだんはたべません。おさかなもそう順調にはきませんし、みそやしょうゆもおくれがちですから、おばさんとおかあさんで、「何をどうしてたべたものやら。」といつて話しあわれることもしばしばあります。

おとうさん、おじさん、かず子さんなどが、おつとめ先の組合で安いものを買つてこられることもあります。家の近くには、生活共同組合というものがあり、うちもはいつ

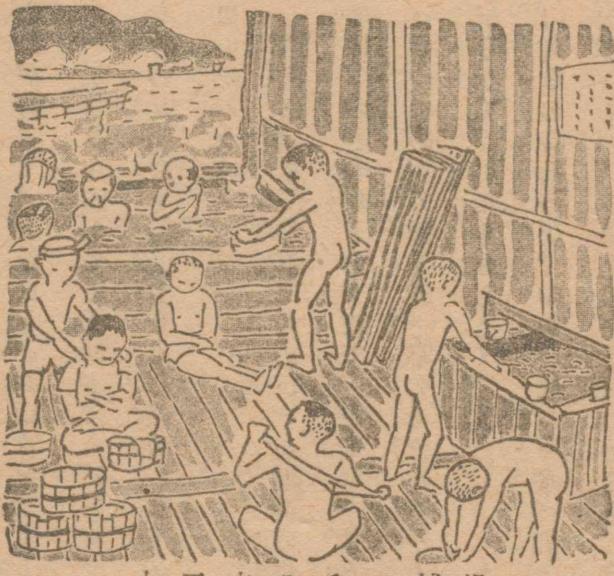
ていますが、ちかごろは、なかなか思うように物が手にはいりません。かず子さんが熱心な賛成者で、ときどき、おばさんたちと、話しあいをなさことがあります。

かず子さんは小さい子どものそだてかたを研究する所につとめていて、ふだんは、町や村の託児所や保健所をまわっていますが、農はん期などには、村の託児所のせわをしにいかれます。

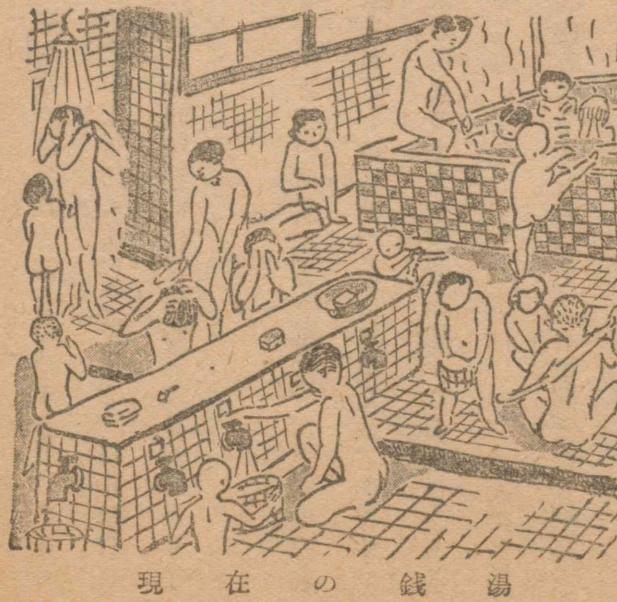
燃料は、どこの家でもたいそう困つているようですが、私たちの家でも、となりの家のほうの庭の木をきつたり、古くなつた物置などをこわして、まきをつくり、それをたいせつに使つています。そして、なるべくガスの出るときや電氣の強くなるときをみはからつて、にたきをします。

火なしこんろが、おかま用、おなべ用と二つもつくつてあつて、おかゆをにる燃料を節約したり、にたきしたもののひえるのをふせいだりしています。おかゆなど、にたつたところで、この火なしこんろに入れておくと、別に熱を加えなくても、どろりとしたおいしいおかゆになります。近所のうちで電氣を使う時間はたいがい一致していて、そ

のときは弱くなりますから、私たちの家では、なるべくそのときをさけてにたきをします。それには、火なしこんろがたいそう役にたちます。お湯をわかしてとつておくのに



大正末ごろの銭湯



現在の銭湯

は、まほうびんを使っています。

電氣こんろやガスこんろは、まわりや下に熱がにげないように、うちがわがとたん、そとがわが木、底がいしわたの箱をつくり、そのなかに入れて使っています。これはみな、おとうさんが考えておつくりになつたのです。おふろも燃料の関係で、特別の日にしかわかしません。ふだんは銭湯^{銭湯}にいくのですが、おつとめにいくおとうさん、かず子さんは、お困りです。

水道は給水所に近いためか、わりあいによく出ます。場所によつては、だいぶ出がわるく、バケツなどにためておかないと困る家もあるといふのに、ありがたいことです。

私たちの家では、朝と晩のごはんのときが楽しい時間です。たいていの日には、九人がみなそろいます。そして、いろいろなおもしろい話をします。朝は、おじさんの散歩のときのお話がよく中心になります。畑の作物のこと、お天氣のこと、肉屋の犬のこと、小鳥のこと、新聞配達の子どものこと、交番のおまわりさんのことなどがあつて、私たちまでおなじみになつたような氣がします。晩には、みんながおもしろい話をします。話がありすぎて、おとうさんとおじさん、おかあさんとおばさんやかず子さん、おにい

さんとし子さんと私たち、というような組になつてしまふことがあります。政治のこと、配給のこと、電車内でのできごと、学校での行事、お店のこと、お客様のことなどが、多く話されます。ときには、昔のことなどもいろいろ出てきます。私たちの小さかつたときのことなどが話されると、はづかしくて困ることもあります。



うちじゅうでおとうさんのお友だちのいるハイなかの方へ出かけて、野菜やいも類などをいただいてくることも、ときどきあります。るすばんは、おじさんかおかあさんのことが多いようです。川の上流で景色もよいので、ハイキングをかねていて、私たちの楽しみの一つです。そのときの計画は、おにいさんを中心に、私たちでたてます。いつごろの

電車がすいているかということなど、おにいさんはたいへんよく研究しています。

本はだいぶいろいろなものがあるので、本を読むことも、うちじゅうのものの楽しみになっています。お友だちなどがみえても、せまくて遊びまわないので、たいてい本を読んで遊びます。

ちくおんきやオルガンも、もとはありましたが、今は疎開したままになつていて、ラジオをきて楽しむだけです。

家の人たちの楽しみを表にしてみました。

おじさん 散歩、碁、読書（政治、経済、歴史など）

おとうさん 番つくり、写真、読書（科学、科学者の傳記など）

おばさん 買物、裁縫、日本音樂

おかあさん 番つくり、料理、生花

かず子さん テニス、料理、西洋音樂、映画、読書（歴史、科学、文学などさまざま）

敬一にいさん フットボール、植物採集、読書（科学）

とし子さん

裁縫、しそう、読書（旅行記、小説、植物の本など）

道男さん

野球、模型の製作、ハーモニカ、読書（科学、工作など）

じゅん子

畠つくり、裁縫、押花、読書（動物などのものがたり）

私たちの家は、ほんとうに満員電車です。でも、みんなが助けあつて楽しい満員電車です。

となりの家があいたら、ちか子さんたちもよんでも、そこでまたいっしょにくらそようといつていられます。そうなつたらどんなにうれしいことでしょう。そしておとうさんは、この家はお友だちに貸してあげたいといつていられます。そのかたは九人家族で、毎日片道二時間もかかる所からお役所にかよつてているのだそうです。



一、図書委員になつて

月 日

道男

このあいだ轉校していつた水谷君のかわりに、ぼくが図書委員に選挙された。きょう

の自治会では、水谷君の手紙を読んだり、学級文庫をよくすることを相談したりした。

水谷君の手紙は、もうひとりの図書委員の中村まさ子さんが読みあげた。水谷君は、こんどいつた学校の図書室や学級文庫のことを知らせたあとで、さつそく縣立図書館にお友だちと見学にいったときのことをくわしく書いてくれていた。それは次のようである。

縣立図書館は、公園のなかにあります。おとの入口と子どもの入口とは別になつています。係の人に、先生からの手紙を出すと、それではおとのほうから案内してあげましようといつて、おとの入口の方へつれていつてくれました。おとのほうは入口で料金をはらつて、閲覽証という番号のついた用紙をもらいます。ぼくたちは、番号の

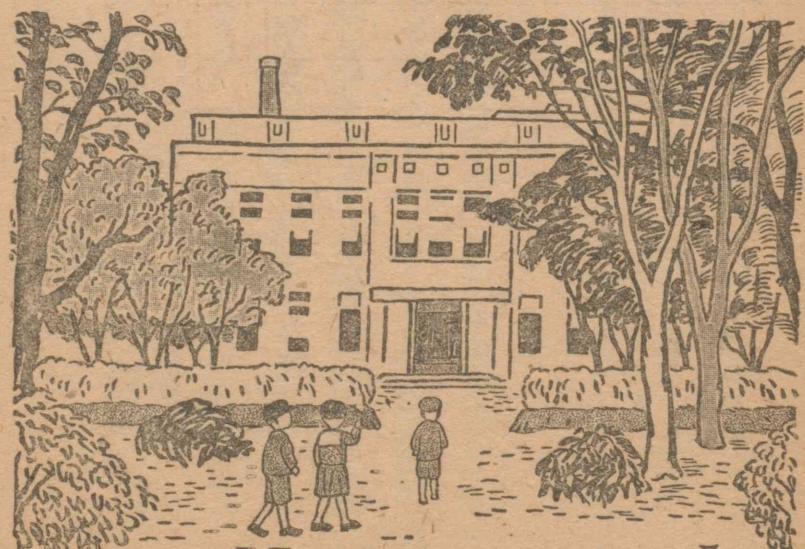
ついていないのを一枚ずつ貸してもらいました。それには自分の住所・氏名・職業・年齢などと、読みたい本の名を書くところがありました。

階段をのぼると、引き出しのついた箱がいくつもならべてあります。いくにんの人が、引き出しをぬいて、そのなかにあるカードで本をさがしていました。ここは目録室といって、借りたい本の名がわかつている人には、その本の番号を教え、しらべたいことがきまついても、どんな本がよいかわからない人には、本の名やその番号を教えてくれる所です。

第 号		交 贻 年 月 日		○○○○図書館 普 通 図 書 閲 覧 票	
閲覧票番号	本ノ番号	交 贻	書 名	冊数	受領
図書は目録又は書架に就てお渡しの上本票にその番号と書名とを記入して出納所へお出し下さい。(同時に借覧し得る冊数は三冊迄但新刊書は一冊)					
★直ちに御署名下さい。姓名には「フリガナ」をおつけ下さい。					
本ノ番号	交 贻	書 名	冊数	受領	
区 域 丁目 番地 方					
住所		姓 名			
職業					

を書いたのでは、その本をほかの人が借りている場合もありますから、水産についての

本を書いた人の名えからも、この図書館にある本をさがすことができるそうです。係の人が何か見たい本がありますか、といわれるので、ぼくは、いつか先生にみせていただいた「水産の話」という本です、といつたら、スの字の所を引いて、番号を教えてくださいました。ぼくたちは、その本の名と著者の名や番号を、さつきの閲覧証に書いてみました。係の人はもうひとつ引き出しひ、水産についてのいろいろな本のカードがあることを教えてくださいまして、一冊だけ見たい本



ある図書館

本を何冊か申しこむほうがよいと、教えてくださいました。

この用紙をもつて、次の室の出納係の所へいきました。ここではおおぜいの人が、本をもつてきてくれるのを待っています。出納手の少年が、たくさんの中をかかえて書庫から出てきました。出納係の人はそれを受け取ると、閲覧証にあわせて、その名をよんで、本を渡します。

案内の人はぼくたちの閲覧証をもつたまま、事務室とのしきりになつてゐるひらき戸をあけてなかにはいりました。そしてぼくたちにも、はいるようにいわれました。ぼくたちは、事務室をぬけて、書庫に案内されました。大きな鉄のとびらが、両方におもおもししくひらかれています。書庫のなかは暗くて、電燈がついています。高い本だなが何十となるんでいて、そのおもてにもうらにも、本がぎつしりと、よく整頓されてならべられています。古い新聞がひと月ごとにとじこまれていて、それが何枚かの、ぶあつい板のよう、きちんと整理してある所もありました。また古い雑誌が製本してならべてあるたなもありました。本には、みな番号がついていて、その順にならんでいました。

係の人は「水産の話」を番号にあわせて、たなの上の方からさがし出してみせてくださいました。いつかの本と同じで、なつかしい氣がしました。「水産の話」をもとの所におさめてから、ぼくたちは、書庫を出て事務室にいきました。まぶしいほど、急に明かるく感じました。

事務室の人たちは、新しい本を注文して買つたり、いたんだ本を修理させたり、本の目録をつくつたり、本や閲覧者についての各種の統計^{とうけい}をつくつたり、書だなの整理や本の虫ぼしをしたり、館外貸出票^{かんがいはしゅ}の整理をしたり、思いがけないほどたくさんの仕事をしていることがわかりました。

ぼくたちが書庫を見学しているあいだ、出納手の少年が、何度も何度もいききして、本を引き出していきました。はしごをあがつたり、おりたり、重い本を何冊もかかえて、いそぎ足で歩きまわる仕事は、ずいぶんつかれることだろうと思いました。夜学にしている人も、晝まは学校にいって、夜働いている人もいるそうです。図書館につとめている人は、いくらでも本が読めていいと思つていましたが、なかなかそんななまやさし

いことではなさそうです。



す よ の 室 閲 覧

事務室を出てから、おとなの閲覧室をのぞきました。大きな机にそれぞれスタンドがついていて、たくさん的人が静かに本を読んだり、書きものをしたりしていました。つかれたのか、いねむりをしている人もありました。

入口で閲覧証をかえして、公園に出ると、なんだかほつとしました。もう一度、子供の入口をとおつて、児童閲覧室の方へいきました。こそこは、ぼくたちの世界で、たいそう明かるく気持ちのよい室です。入口で料金をはらうこともりません。閲覧票は、係の人の机の箱に入れてあります。本だなが事務室と閲覧室とのあいだにあつて、ほしい本のあるなしがすぐわかります。しかし、本だなのこちらがわ

金澤文庫

金沢文庫の印

に金あみがはつてあるので、すぐとるわけにはいきません。やはりその本の番号や、名まえを閲覧票に書きこんで、係の人に事務室の方からとつてもらうのです。小さな目録箱も用意してあつて、金あみの本だなにない本で、ぼくたちに読みそうな本が、さがせるようになっています。

窓がわの本箱には、すぐとつて読めるような本がぎっしりとならべてあります。これは閲覧票に書かずに読んでもよいのです。三、四年生は、おもにこのほうを読むようです。係の人は四人ほどいて、ときどきみんなの読んでいるようすをみまわつたり、どんな本をよんだらよいかということの相談にのつてくれたりしています。ぼくは館外貸出のしかたをきいたり、それに必要な申込用紙をもらつたりしました。

主事室にいつてからは、図書館のはじまり、日本の図書館の数、外國の図書館のあります。図書館を利用する人たち、図書館で困ることなどについて、かわるがわる質問しました。みなさんやぼくのもう知っていることもあつたわけです。図書館で困ることは、

わが國のおもな図書館

(昭和21年5月1日現在)

藏書冊数5万冊以上のもの

館名	藏書冊数	館名	藏書冊数
國立図書館	(千葉位) 1038	県立佐賀図書館	(千葉位) 63
秋田縣立秋田図書館	115	長崎縣立長崎図書館	119
行啓記念 山形縣立図書館	55	鹿兒島縣立図書館	72
福島縣立図書館	61	市立小樽図書館	55
御成婚記念 千葉縣図書館	69	函館図書館	85
都立日比谷図書館	50	前橋市立図書館	61
都立駿河台図書館	61	横浜市立図書館	71
明治記念 新潟縣立図書館	104	金沢市立図書館	70
紀元二千六百年記念 富山縣立図書館	65	市立飯田図書館	109
石川縣立図書館	90	市立名古屋図書館	67
縣立長野図書館	72	市立名古屋 公衆図書館	85
文庫	64	神戸市立図書館	137
京都府立京都図書館	196	成田図書館	140
大阪府立図書館	350	財團法人岩瀬文庫	91
奈良縣立奈良図書館	84	財團法人大橋図書館	190
和歌山縣立図書館	69	慶應義塾 藤山工業図書館	65
鳥取縣立鳥取図書館	59	山文庫	71
島根縣立松江図書館	56	天理図書館	160
山口縣立山口図書館	103	財團法人鎌田 共済会図書館	57

ちの学級文庫に寄附してくれた。そこで、ぼくから水谷君に礼状をあげることになった。

学級文庫を他の学級文庫と交換すること、

既設図書館数	
設立者別	館数
國立	1
府縣立	73
市立	200
町立	564
村立	1669
組合立	38
私立	854
計	3398

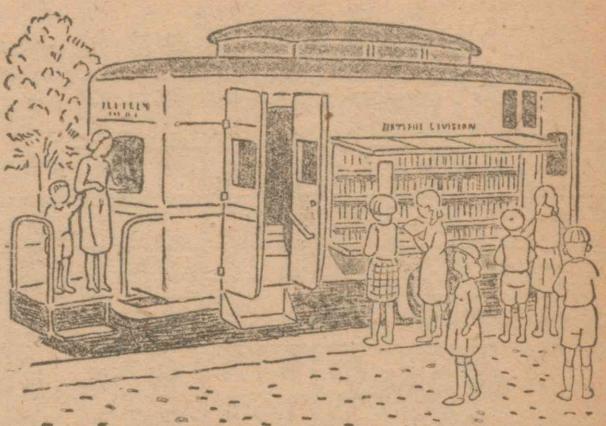
外國のおもな図書館

蔵書冊数100万冊以上のもの(1926年現在)

館名	創立年代	蔵書冊数	館名	創立年代	蔵書冊数
大英博物館文庫	1753	(万單位) 300	レニングラード 國立公共図書館	1814	(万單位) 420
ケンブリッジ 大学図書館		120	(レニングラード) ブッシュキンの家	1905	112
(オクスフォード) ボドレー図書館	1602	104	ニューヨーク 公共図書館	1895	254
パリ國民図書館	1518	414	(ボストン附近) ハーバード大学図書館	1633	232
(ストラスブル) 大学及地方図書館	1871	130	シカゴ公共図書館	1872	167
(ミュンヘン) バイエル國立図書館	1558 —71	155	ボストン市公共図書館	1854	144
(ウイーン) 大学図書館	1775	105	(ニューヘーヴン) エール大学図書館	1701	139
(ナボリ) ヴィクトル・エマヌエル 三世王立國民図書館	1734	101	ニューヨーク市 コロンビア大学図書館	1754	136
(マドリード) 國民博物館文庫	1716	116	クリーヴランド 公共図書館	1869	130

やはり本がなくなつたり、本をよごしたり、その一部分をきりとつたりする人のこと、本を買おうとしても、なかなか買いにくいため、希望する人全部を、待たせないで入館させることのできないこと、閲覧室がせまくて、水谷君は、リンカン傳と小公子の二冊の本をぼくたことをききました。

本をもつとふやすこと、本の修理をすること、などもきまつた。



学級文庫の交換は、中村さんとぼくから、他の学級に話すことになつていて。本をふやすには、図書館で花を栽培し、これを賣つて、そのおがねで本を買つてはどうか、という意見があつて、それを実行することになつた。本の修理は、來週の工作の時間に、のりと糸とあつ紙をもちよつてすることになつた。

先生は図書部の仕事はこれからいつそうたいせつになるといわれたが、ぼくもみんなのためにしつかりやろうと決心した。

三、大きな病院

月 日

じゅん子

大学病院に二〇年以上つづけてつとめていられるおじさんが、久しぶりにおとうさんのおみまいかたがたおみえになつて、おとうさんを診察してくださつたあと、私たちに病院のお話をしてくださいました。

おじさんのつとめている病院は、四階建の建物で、そのなかに、内科・外科・産婦人科・小兒科・眼科・耳鼻科・歯科その他の科があつて、すべてろうかずたいにれんらくできる、大きな病院だそうです。ベッド（病床）の数が八〇〇ぐらいもあつて、大学病院のなかでは、大きいほうです。しかし外國の大病院といつたら、とてもそんなものではなく、アメリカあたりにはこの二〇倍もある病院があるそうで、それからみると、おじさんのところなどは、小病院といわなければならない、とのことです。

おじさんの専門は、内科のうちの、しかも肺結核の治療ですが、それについては、こ

んな話がありました。



「文明國のうちでは、日本は肺結核の患者が多い國だ。これははずかしいことだと思う。しかもこの病氣に対する日本人の知識は、いっぱいにたいそう低い。いつたん肺病にがかつたというと、日本では、ただその病人をけざらいすればすむと考えるふうがある。傳染病だから、警戒することは大いに必要だ。しかしそういうふうにこわがつていながら、いっぽうでは、たんをどこへでもはきちらしたり、人の顔のまえでせきをして平氣でいたり、とにかく結核の療養は、時期をにがしてはいけない。結核の療養は、一日早ければ、一箇月早くなる。だから早くみつけることがたいせつだ。

まくすれば、肺病はそんなにおそれる必要はない。結核は、今日ではむしろなおりやすい病氣だといつてもよい。

とにかく結核の療養は、時期をにがしてはいけない。結核の療養は、一日早ければ、一箇月早くなる。だから早くみつけることがたいせつだ。

もともと結核菌は、西暦一八八二年に、ドイツの医学者ローベルト・コッホによつて発見されたもので、菌は患者のたんのなかにたくさんふくまれているが、肉眼では見ることができない。結核に感染したかどうかをしらべるには、科学的な検査の方法がいろいろある。その一つはツベルクリン反応の検査だ。

ツベルクリンというのは、結核菌によつてつくり出された一種の物質で、結核に感染するとからだがツベルクリンに対し^て敏感になるという性質を利用して、結核に感染したかどうかを検査する。つまり、ツベルクリンの注射によつてひふが赤くはれるものは、

結核に感染したことのあるしょうこで、これをツベルクリン反応が陽性だというのだ。

統計でしらべてみると、大都会で生活しているものは、満二〇歳までに約七〇パーセントという人が陽性になつてゐる。それ

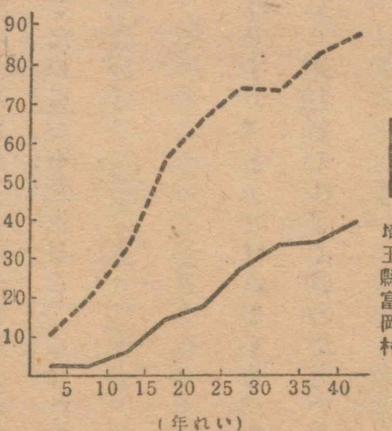
昭和十四年厚生省研究所調査

が農村では、三〇パーセントくらいの低い率だ。しかし感染したからといって、

むやみに発病するものではないからあわててはいけない。発病しているかどうか

は、レントゲン検査とか、たんの検査、赤血球の沈降速度などをしらべて、たしかめることができる。

いっぽう予防の方法もだんだん科学的になつてきてゐる。近年わが國でも、かなり行われるようになつたBCGがその一つだ。これはフランスの医学者であるカルメットと獣医グランによつて発見された牛結核菌で、これを人体にうえつけて、人工的に結核に



(イ)このころまでは、BCGの影響も、疎開引きあげなどによる変化も、ほとんど考えられない。

(ロ)月島は都會地の最高率、富岡村は農村のうちでも

最低の率である。

年れいとツベルクリン反応陽性率

感染させ、害にはならないようにして免疫性をあたえようとするものだ。

現在は、戦争中の過労や戦後の栄養不足のため、結核になる人が非常にふえている。そして今のような状態がつづけば、結核患者はいよいよふえるおそれがある。食物だけでなく、住居の状況や、交通機関や映画館のこんざつなども、ずいぶん危険といわなければならない。紙やハンケチに不自由するために、不衛生なことになってしまった人もあるが、これなども困つたことだ。」

といわれました。

この病氣にかかつたらどうしたらよいのですか、とうかがいますと、それは、信用のできるお医者さんのいうことをよくきいて、養生をすればよいのだといつて、新しい療法の話をいくつもしてくださいました。

おとうさんの病氣については、

「どうもおじさんの専門のほうではないのですよくわからないが、ふだんあのくらい元氣ならそつ心配することはあるまい。しかしおとなで夜中にひきつけるのは、ごくめずら

しいから、その原因をはつきりさせる必要がある。それにはひとつゆつくりと、おじさんの病院にでもはいって、いろいろな専門のお医者さんにくわしくしらべてもらうのがよい。いろいろな科の医者が、現在あるもつともよい方法で、さまざまの機械の力なども借りてしらべるのだから、きつとはつきりするだろう。それでもいけなければ、大学の研究室の先生たちの力を借りてやることもできる。しかしそんなにしないでも、おとうさんの病氣の原因ぐらいは、おじさんたちの病院できつとつきとめられるだろう。

こういったことは診察ばかりでなく、治療のほうでもやはり同じで、むずかしい病人は、内科にいつたり、外科にまわされたり、耳鼻科と内科の医者が立ち会つたりして、治療する。医者というものは、人の生命をとりあつかうのだから、少しもごまかすことのできないものだ。だから自分にはつきりしないときは、他の人の助けを求める。それがこういった専門の医者の集まつている大きな病院では、いつそうやりやすいのだ。

だからふつうの病人は、いっぽんの開業医にかかるが、むずかしい病氣にかかつた人や、病氣が重くなつて手あてのむずかしい病人は、大きな病院にはいるわけだ。おじさんは、病院なども、縣内はもちろん、他の府縣からも集まつてきている。

入院するとずいぶん費用がかかるように思つてゐる人も多いが、おじさんの病院のよくな大学の附属病院などは、思いのほかにやすあがりなのだ。だがなんといっても、病氣にならないことがいちばんだ。

みんなが病氣にならないようにすることは、公衆衛生の受けもちだ。はじめにもいつたように、たんのしまつとか、うがいの励行とかのほか、寝具の日光消毒や予防注射の励行、あるいは、栄養食の研究とかいつたようなことが、もつともとさかんにならなければ、病人があとからあとからふえるばかりだ。この方面では、アメリカなど、ことにすぐれている。おじさんがあちらへいったのは、もう一二、三年もまえのことだつたが、あのころでさえ、そういう方面的研究や教育がすすんでいたのに感心した。町や村には保健所があるし、小学校・中学校などの保健衛生の設備も十分ととのえられていた。今、きみたちがいただいている学校給食なども、あちらではずっとまえからやつていた。そのごうんと発達したという話だから、こんごも大いに研究して手本にする必要

があるだろう。」

おじさんの話は、おとうさんの病氣のことから、だいぶ廣がつていきましたが、たいへんおもしろくうかがいました。そのあと、おじさんは、日本の医学はこれからもいよいよ深く研究され、またいろいろ他の学問の助けも借りて発達させなければいけないということを、戦争中イギリスで発明されたペニシリンというくすりを例にとつて、話してくださいました。このくすりは、肺えんや化のう性の病氣にたいそうよくきくすりですが、これは青かびのつくり出す物から化学を應用してつくつたもので、かびの研究とくすりの研究とが助けあつてはじめてできたものだそうです。

おじさんは、病院は海岸をみはらす高台の上にあつて、すぐとなりには大学の研究室もつづいているがら、一度ぜひみにくるようといつてお帰りになりました。

四、工場の見学

月

(一)

道

男

地図を見ながら、廣い街道をつつきつて、どう木林のなかの道を少しくと、ゆるやかな丘おかが見えてきた。あたりは一面のさつまいも畑になつてゐる。丘の上の道を少しくと、左手のぞう木林のなかに、大きなえんとつがあり、やがてコンクリートのしつかりした建物が見えてきた。

門のまえに立つてなかをのぞくと、正面にはふんすいのある小さな池があり、左がわにしゆえい所、右手に事務所らしい建物がみえる。うえこみやしばふもあつて、明かるい感じだ。機械の音もしないし、ちよつと工場のような氣がしない。

しゆえい所で、おとうさんのめいしを出したら、しゆえいのおじさんは、事務所へ電話でれんらくした。すると、事務所の女の人がきて、ソファーのある應接室へ案内して

くれた。ちょっと待つたと思うと、すぐ工場長さんがみえた。

ぼくたちは、工場でしらべることや質問することについて、まえもつてきめておいたので、約三〇分ほど、いろいろ工場長さんからお話をきいた。



工場

「この工場では、原料の綿や毛を糸にするときに、どうしても使わなければならぬ針布といふものをつくっている。五、六ミリの厚さに張りあわせた基布とよばれる布地に、短かい鋼鉄線をこまかくうえたもので、紡績工場などではどうしてもなくてはならないものだ。針布で綿を何度もくしけづてから、や

つときれいな糸ができるからだ。

針布は、長いあいだ外國から輸入していたが、昭和八年からこの工場でつくれるようになつた。針をうえる植針機という機械も、はじめの見本は外國から買い入れ、その使いかたなどは、イギリスやドイツへ技師が研究にいつて教えてもらつたり、むこうから熟練工をよんで、ならつたりした。

そのご植針機は、わが國で改良したものを使うようになり、政府の補助もあつて、昭和一五年ごろからは、針布はほとんど國產品でまにあうようになつた。この工場では、わが國の製品の六割ぐらいをつくり出し、あとは他の一、二の会社でつくっている。

この工場で働いている人は、事務所の人も、工場の人も、あわせて三〇〇人ぐらいで、その三分の一が女の人だ。特別の事情のある一、二人のほかは、全部社宅か寄宿舎に住んでいる。この工場では、みんなが家族のように、仕事のことでも、そのほかのことで、も、なかよく助けあつていこうというのが、はじめからのたてまえで、社宅や寄宿舎も、工場といつしょにできた。

工場で働いている人々は、新潟県の人がいちばん多い。またこの工場には、工場の

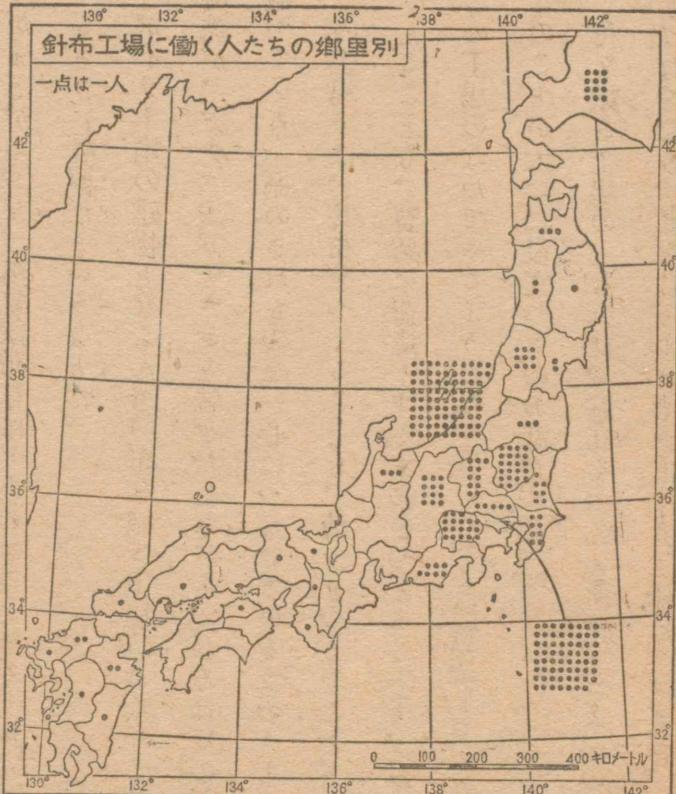
できたときからつとめている人がわり多い。これは、熟練した人を必要とする

の工場の強みになつてゐるわ

けだ。」

といふようなことだつた。

工場長さんと話をしているうちに、作業部長さんと、従業員組合の委員長さんがみえた。ぼくたち三人を、三人のかたで案内してくださつた。



(二)

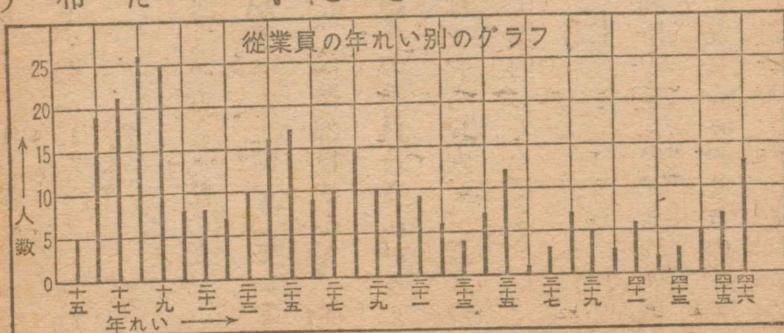
事務所のまえの、きれいに

られた道を右の方へいくと、右手にタンクがあり、やがて高いえんとつの下あたりに、

ボイラーハウスの建物がある。そこには石炭でたくかまと、電力を使ふかまとがあつた。蒸氣は布をはりあわせるときや、かんそうさせるときに必要だということだ。

ボイラーハウスの建物とならんで、布を織る工場がある。十数台の機械が、ガチャンガチャンと音をたてながら、ひろはばの綿布を織つてゐる。糸のされたのを一心につないでいる女の人もいた。この工場では、基布をつくることも、針金をつくることも、針を使うことも、製品を荷造りする木箱をつくることも、みんなこの工場のなかでやるようになつてゐる。よい製品をつくるには、このことが大いに役立つとのお話だつた。

布を織る工場のとなりは、基布をつくる所で、ゴムをのばしたり、ねつたり、布をはりあわせたりする工場だ。ゴムは、布と布のあいだをはりあわせたり、布地に彈力性をもたせるために使う



ということだ。

ゴムや布は、大きなローデーのあいだをとおつて、はりあわせられる。このへやはガソリンくさく、またたいへんむしゃつくて、長くいられそうもない。ガソリンはゴムのなかにはいつているのだが、火事の危険をふせいだり、蒸発するガソリンをもう一度もとへもどしたりするためにくふうがほどこされていた。工員さんたちは、きびんにいそがしく働いていたが、みんなせなかは汗でぬれていた。

この工場につづいて、はりあわせた基布をかわかすへやがある。小さなくぐり戸をあけてなかにはいると、すぐちがつた空気が感じられる。大きな輪型のかんそく機に、はりあわせた基布がまかれている。

室内の温度は二〇度、湿度は四二パーセントだつた。きょうの事務所の湿度は、六九パーセントだという。適当に調節した空気をしじゅう送りこんで、五〇パーセント内外の湿度をたもたせておくと、三週間ぐらいで基布がかわくということだ。

かんそく室を出て、針金の工場にいった。

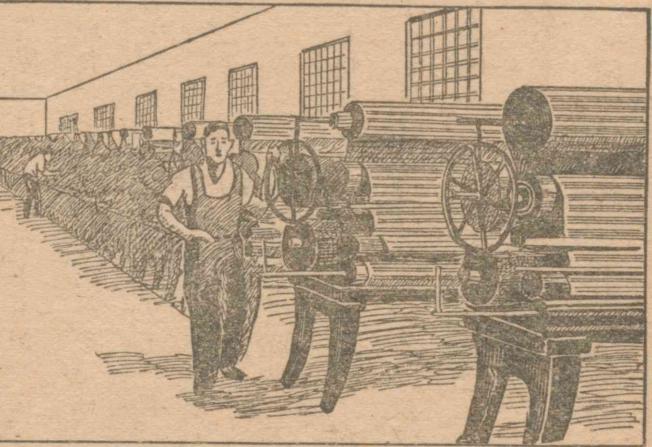
針金は針布のいわば生命線だ。針金のふとさを一定にし、つやを出し、まがらないような固さにする。それがうまくいくかいかないかで、製品のよしあしがきまる。鋼鉄の質がどうしても外國のよりおとるので、苦心が多いそうだ。仕事はすべて、電力による自動的なしかけで行われているが、針金をのばすダイスや、焼きいれ焼きもどしのための電流の調節に、こまかい注意がはらわれている。

針金を六〇〇度以上に熱して焼きをいれ、次にまた適当な固さにもどすためには、その針金にじかに電流をとおしている。しかし、電流をとおす所は、油やエボナイトやいしわたで絶縁されている箱のなかなので、赤くなっているところは見えない。

へやのなかには、うまくできなかつた針金が、はねのけられていた。ぼくたちからみると、少しもかわらないようで、もつたいないようだが、よい製品をつくるためには、やむをえないことだそうだ。へやのすみには、それを使つて、船のパイプのなかを掃除するブラシをつくつている人がいた。

(三)

針金工場を出て、鉄きんコンクリートづくりの二階にのぼつた。たくさん機械がいっせいに運轉され、機械の音で、話し声もききとれないほどだ。はば二センチぐらいの厚い基布に、こまかく針金がうえられては、てんじょうの方へひとりでにつりあげられていく。これが植針機だと思つてよく見た。針金が適當な長さに切られる。基布に針がさされて小さな穴があけられる。



横のそこへ針金がささつて、一定の角度に折りまげられる。それらがいつしゅんのうちに行われる。上方を見ると、かなり大きな鉄のおもりがあつて、針をうえた針布が、だんだん上方へ引きあげられるようになつている。そのわきには、ここで働いている工員や技師が苦心して発明したという安全装置がついているので、針布が途

中できれてもおもりはおちてこないしあけになつてゐる。

二階では、三階のとちがつて、横に短かくできていく植針機が、これもさかんに動いていた。そのとなりのへやは、できた針布をいちいちしらべて、できのわるいのをぬきとつて、手でうえかえていた。ずいぶん根氣のいる仕事で、これは女の人の受持になつてゐるそうだ。

このコンクリートの三階建の工場は、すべて二重窓になつていて、全部一定の湿度がたもたれるようになつてゐる。湿度計をみたら、ここも四一パーセントになつていて。これは湿度が高いと、針金がさびてしまふからで、工場の敷地を、この郊外の高台にえらんだのも、同じ理由からだといわれた。工場の敷地をきめるまでの苦心を、工場長さんからきかしていただいた。

一階では、横はばの廣い機械が、ものすごい音をたててまわつてゐる。そこでは大きなローラーに針布がまかれてい、それがまわるあいだに、針金の先がとがれるようになつてゐる。機械にはおおいがかぶせてあつたが、これも安全装置で、針金の先がとが

れるときにできるこまかい鉄粉てつぼんが、働く人の目やからだをきずつけないようになつてゐる。おおいの上にパイプがついていて、鉄粉をすいあげていた。

そのとなりのへやは、亞鉛あたなの箱をつくり、ハンダづけをしていた。これは針布を途中でさびさせないためで、さらに木箱につめる。

倉庫になつているへやは、荷造りされた箱がたくさん積みあげられていた。荷札はさつで行先をしらべると、愛知縣・大阪府・岡山縣・佐賀縣・富山縣などがみつかり、なるほど全國へ送られていくのだなと思つた。

さいごに地下室へ案内された。そこでは、モーターが工場で使う水をくみあげていた。夏のあいだは、この水で二階建の各室にひやした空氣を送り、そのあまり水は工場の水泳用のプールに入れているときいて、いろいろふうがされているのにおどろいた。

(四)

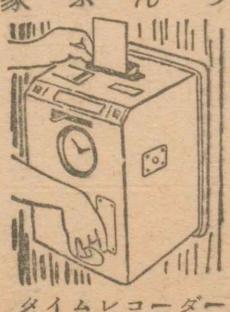
おべんとうは、工員さんたちの大きな食堂でたべた。独身の人はみんなここで二度の食事をするのだそなうだが、少しガランとしそぎているような氣がした。講堂をかねてい

るらしく、ステージもあり、窓には暗幕装置がしてあつた。月に一度はかかさず映画会がひらかれ、劇などもやることがあるという話だつた。

厚生部長さんのお話で、この工場では、朝八時から午後四時までが勤務時間になつていて、晝休みが一時間あり、じつさいに働く時間は七時間だということ、あとの時間は、いろいろな運動をする人もあり、習字や裁縫をならう人もあり、勉強したり、夜学にいく人もあるといふこと、社宅にいる人は、社宅のまわりの畑をつくつたりすることなどがわかつた。東京に近いので、仕事がすんでから、映画をみにいくのにも便利だといわれた。寄宿舎のおふろは毎日たてられるが、宿舎の人だけでなく、社宅の人もその家族も、男と女と一日こうたいにはいるのだそなうだ。

運動場をとおつて、女子の寄宿舎を見学した。へやごとに、コスモスやきくをいたかびんがかざられていて、明かるい感じがした。

門の所のしゆえい所で、タイムレコーダーを見た。カードをいれておすると、出勤や退



出の時刻が記入される。出勤しているときと、帰つたあととのカードのおき場所は、タ
イムレコードの右と左になつていて、一枚一枚のおく場所が番号順にきめてある。

(五)

また道をもどつて、ゆるやかな谷をこして、社宅のたちならんでいるなかをひとめぐりした。同じような構造で、なかも同じ間取りだそうだが、玄関の戸などは、いろいろとちがえてあつた。どの家にも少しずつ畠があることと、ふろのついていることは、よく考えてつくつたものだと思つた。

それらの社宅のまんなかに、テニスコートがあり、そのとなりには社宅の人たちの買物をする市場があり、また幼稚園までできている。

テニスコートをへだてた丘の一角には、工場のクラブがある。このクラブの一階の洋間で休みながら、また工場長さん、委員長さん、厚生部長さんたちのお話をきいた。クラブには医療室がついており、お医者さんも専属の人がふたりいるそうだ。ピンポン室も二へやあり、二階には日本間も四つほどあつた。

工場長さんは、おとうさんと同じくらいの年の人で、ぼくたちの質問にもしんせつに答えてくださつた。学校のことなどもいろいろおききになつて、おもしろがつていられた。この工場は、このごろやつと戦前の半分までに回復し、他の工場の製品とあわせるところ、現在日本で使う針布はまにあわせることができると、機械を組みたければ、もつと製品をつくつて、東洋各地に見返り物資として出すことができるそうだ。東洋にはわが國しか針布をつくる所がないし、外國でも、今のところこちらへ送り出すほどはつくつていないのである。

厚生部長さんも四十ぐらいの人で、しんせつにいろいろ教えてくださつた。工場の食堂は大人数だから、遅配のときはたいそう困ることや、食事はなるべく家庭料理ふうにつくるほうがよろこばれることや、通商産業省でせわしてもらつて、魚がわりあいに多く配給されるので、工員のからだによいということなどの話もあつた。

従業員組合の執行委員長さんは、三〇ぐらいの人で、やさしいしんせつそうな人だつた。ぼくは、植針などあきはしないかときいたら、一〇年、一五年とやつてている人たち

が、「やつと機械のことがわかつてきておもしろくなつた。これからだぞ。」というよ
な意氣ごみだと話してくださつた。機械がおもに働く、かんたんな仕事のようにみえる
が、これでなかなか頭を働かせ、手を働かせる部面があるのだと笑つて教えてくださつ
た。吉田君は、組合の役員はどうしてきめるのかとか、どんな部があつてどんな仕事を
するのかなどときいた。

ぼくたち三人に、三人も四人の人たちがつきそつて、ていねいに教えてくださつて、
ほんとうにありがたかつた。これでやつと工場というものがわかつたような氣がした。
お礼をいつて、帰り道についた。

おとうさんに、このことを話したら、「それはよかつた。だが工場にもずいぶんいろいろ
なのがある。あの工場は特別よい工場なのだから、それだけでかんたんにのみこんで
しまつてはいけない。」といわれた。お礼の手紙も早く出すようにと教えてくださつた。
あした、三人で書くことにしてよう。

五、紡績工場へ

月 日

道 男

このまえに針布工場へ出かけてから、針布がどういうふうに、どんな所で使われるの
だらうかと思うと、どうしても実際に使われるところを見にいきたくてしかたがない。
おとうさんに話したら、それなら紡績工場へれんらくしてみようといわれた。その結果、
次の日曜日は工場が休みでないことがわかつたので、工場長さんあての手紙を書いてく
ださつた。

日曜日に、針布工場へいった三人はさそいあわせて、省線で工場へむかつた。省線を
おりて、工場のある所をたずねたらすぐわかつた。このあたりは工場の多い所だつたよ
うだが、まだほとんど復興していない。

だるま船のかようほりにそつて一〇分ばかりいくと、目的の工場へついた。ここだけ
が戦災をまぬかれたようだ。針布工場と同じように・しゅえいさんが案内してくれた。

すると、大きな事務所の一室で、工場長さんがあつてくださつた。

この工場は今から三〇年あまり
まえにたてられた古いものだが、
しあわせにも戦災をまぬかれたの
で、今力いっぱい機械を動かし、
見返り物資として、綿糸や綿織物
をどんどんつくり出している。日
本全体としては、紡績工場もだい
ぶ復興してきているが、まだまだ
みなさんの着物の材料をつくり出
すまでにはいかない。しかしもう
少しのしんぼうだろう、というよ



うな話があつた。

工場のなかは、事務所の別の人気が案内してくれださつた。

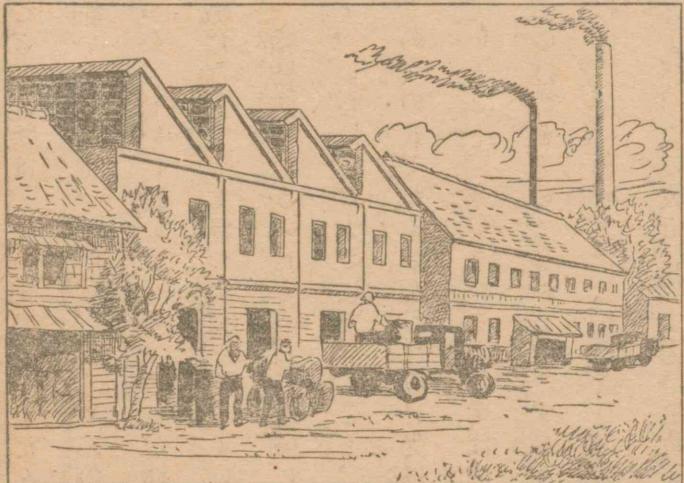
くくられた原料の綿が山のようにつんである倉庫をのぞいてから、工場へはいった。
綿をほごしてから、つぎつぎにローラーにかけている。このローラーに問題の針布がま
かれていた。

細い針布が、一メートルはばぐらいのローラーいっぱいにすきまなくまいてある。一
方には横にとりつけた針布があつて、その針布と、ローラーの針布とのあいだは、紙ひ
とえのすきましかない。そのあいだへ綿をかけると、ローラーの回轉につれ、適当な厚
さにはごされて出てくる。針に綿がひつかけられて、くしけずられることがよくわかる。
いくつもこの機械をくぐつていくうちに、綿はごみを取りのけられ、きれいなうすい綿
になつて出てくることがわかつた。さいごに別の機械にかけられると、うすい綿はいく
つかの綿の列になり、それが太いひもになつて出てくる。

へやのなかは、綿のほこりでいっぱいだ。空氣のきれいな針布工場とはだいぶようす
がちがう。働いている人も女の人が大部分で、かんとくさんのような人だけが男の人だ

つた。

つぎの建物は、太い綿のひもをだんだん細い糸にしていく所だ。たくさんの機械がいっせいに動いている。これが紡績機械だなと、すぐ気づいた。正しくいうと、精紡機^{せいぼうき}というのだそうだ。機械によつて、いろいろな太さにできること、ひとりの女人でたくさんの台数を受け持つていること、糸がきれると、手ばやく機械の運転をとめてなおしたりすることがわかつた。糸をまきとる鋼鐵^{こうてつ}の心棒^{こころぼう}を鍤^{くわ}とよび、この数で紡績工場の生産高があらわすということだ。戦前には、わが



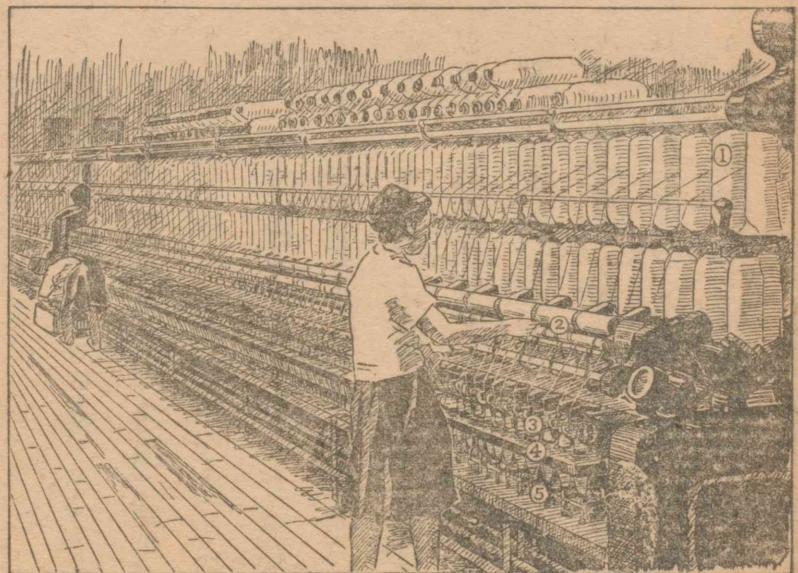
このぎり屋根の工場

國で一二〇〇万鍤^{くわ}が動いていた。現在は四〇〇万鍤まで回復することがみとめられ、だ

んだんそれに近づいているということだ。

工場のなかがかんそうすると、糸がきれやすくなるので、戦争前は、いつもへやの湿度を六〇パーセントぐらいにしておく装置もあつたが、戦争中にそれをとつてしまい、てんじょうもはがしてしまつたので、今は天然の湿度のままでやつているそうだ。

別の建物では、針布工場で見たように、廣いはばの綿織物が織られていた。のこぎりのはのようにざざざざになつた屋根のガラス窓から光線がはいつてくるせいか、工場のなかの明かるいのに感心した。しかしこまかい綿くずがもうもうとたちこめて、空氣はたい



精紡機 ①糸巻 ②引伸し器 ③糸巻 ④輪具 ⑤鍤

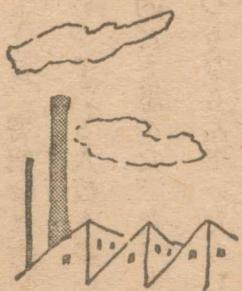
そうよざれている。マスクをつけている女人の人もだいぶ見える。このほこりではからだにわるいのではないですか、ときくと、これで病人はわりあい少ないんですよ、といわれた。植物性のほこりは、あまり人体に害がないとのことだが、このほこりをすいとするような装置がほしいと思つた。

工場を出てから、工員さんたちの寄宿舎へ案内された。女人の人だけでも千人以上いるとのことだ。寄宿舎は古いせいか、針布工場より一見してきたなく感じられ、ひとへやにはいつている人数も多いようだ。しかしろうかなどはよくふかれっていて、わりあいに衛生的だと思つた。たべものや、雑貨類の賣店や、美容室があつたり、テニスコートがいくつもならんでいたりしたのには感心した。

案内の人のお話では、同じ紡績工場でも、関西などには、最新式の設備をもつた大きな工場もできてゐる。そこでは今でも、夏と冬でそれぞれ調節した空氣を送つたり、湿度を一定にしたりすることをやつてゐる。またほこりのたたないよう、いろいろなくふうがほどこされ、ゆか板にもほこりがつかないために、さゝらの木を使つたりしてい

ることのことだつた。

きょうは日曜でふだんならお休みなのだが、電力の関係で休まなかつたということだ。おかげで針布のゆくえもわかり、工場のようすも二つをくらべることができたのでうれしかつた。



六、学校給食

月 日

じゅん子

こんどみんなで学校給食のことをしらべました。はじめにみんなで話しあつてきめたしらべることがらは次のようなものでした。

- 一、学校給食はなぜ行われるようになつたか。
- 二、学校給食は日本じゅうどこの学校でも行われているか。外國の学校ではどうか。
- 三、学校給食の材料はどこからくるか。

四、学校給食のこんだてはだれがきめるか。

五、学校給食をつくるときには、どんなことに苦心するか。

六、学校給食の費用はどのくらいか。

七、学校給食の効果はどんなところにあらわれてきたか。

そのしらべかたは先生のおすすめもあつて、給食係の小林先生、衛生室の松本先生、



学 校 給 食

学校給食が行われるようになった一つのわけは、そだちざかりの私たちの栄養が不足して、からだが弱くなるのをふせぐためです。戦争以來わが國の食糧は不足し、どこの家でも思うように食糧が手にはいりません。これはわが國だけではなく多くの外國でもありました。

同じで、ことにヨーロッパの國々では、日本以上に困つてゐるところもあります。食糧が思うように手にはいらないと、栄養が不足して人々のからだが弱つてきます。こういうときには、そだちざかりの小さい子どもや、私たち小学校の生徒は、よく注意しないと、あとあとまでからだが弱くなつて、とりかえすのにほねがおれます。それで、おとうさんおかあさんはもちろん國じゅうの人たちが、とくに私たちのためにいろいろと心配して、学校で給食をしてくださるのです。

学校給食が行われるようになつたもう一つのわけは、これから日本人の食生活をもつとりつぱなものにするためです。食事というものは昔からのしきたりがあつて、なかなかわりにくいものです。白米でないとまずいとか、パンではたべたよくな氣がしないとか、腹さえ一ぱいになれば副食物などどうでもよいとか考えたり、料理が衛生的でなかつたり、たいせつなじようをだめにしてしまつたりすることがたくさんあります。たべなれない食糧でも、じょうのあるものは、うまく料理してたべ、必要なじようをかかさないでとつていくためには、私たちのように小さいうちから、食事に氣をつけるこ

とがたいせつです。またみんなでなかよく楽しく食事をするしかたもおぼえる必要があります。学校給食では、そのような勉強もできるわけです。

それでは学校給食は、日本じゅうどこの小学校でも行われてゐるかといふと、まだそうではありません。まずさいしょに全國のすべての市の小学校で行われ、しだいに町や村の学校でも行われるようになつてきました。まず都市のような食糧の困りかたのはげしいところから行われたわけです。外國でも学校給食はもつと以前から大規模に行われていて、政府が多額の費用を出しているところも多いそうです。くわしいことは先生がたもまだよくごぞんじないので、わかつたらまた教えてくださいといわれました。

学校給食の材料は、ずいぶんほうぼうからきています。^{脱脂粉乳}やジュースのようにはるばる海をこえてくるものもあります。今は全世界が食糧に困つていてます。少しでも樂な國の人たちは、自分たちの分をへらしてまで外國に送つてゐるのです。「自分たちだけたくさんたべても、他の國の人々がたべられないで困つてゐるのを見てはうれしくない。」と考へてゐるからだととききました。政府や都道府縣から給食用に配給されるも

の、市役所や学校で集めるものもあります。

給食用の燃料は今ではまきがおもなものです。これもずいぶん遠くからはこばれています。これも思うように手にはいらないので困っている学校が多いのですが、私たちの学校では、製材工場からおがくずをゆずつてもらっているので、どうにかつごうがつくそうです。

どんな材料をどれほど使つて、どのような料理をつくるかということは、これまで小林先生と松本先生と調理係の山田さんの三人が、相談してきめていましたが、これからは、両親と先生の会の給食部の委員長も参加してきめるそうです。現在おもな材料は脱脂粉乳・魚・野菜・油・かん詰で、これにいろいろほかの材料をくわえて、週四回ほどあたたかい副食物を給食するきまりになつており、それらの物は、ひとりあたり一回一八〇カロリー以上で、たんぱく質一五グラムをふくむようにしているのだそうです。私たちの学校では、火・水・金・土の四回、副食物を給食してくださいます。こんだて表には、そのたびごとのカロリーが記入してありました。うしの骨やぶたの骨を使うと、

カロリーがそうとうふえることや、バターを入れると、カロリーがぐんとふえることなどがわかりました。

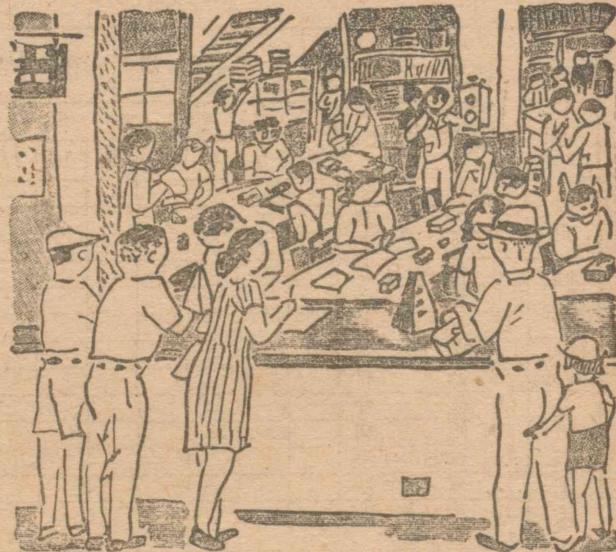
給食をつくるときは、材料をむだのないように、しかも清潔に料理すること、食器類を清潔に扱うこと、ちょうどあたたかいものがたべられるようにすることなどです。これはとくに調理人の山田さんとその妹さんが苦心します。このふたりは、材料を受け取つたり、買つたり、料理したりします。給食がはじまつたばかりのころには、おかあさんがたが四、五人ずつみえててつだわれましたが、四年以上は自分たちで分配しますし、三年以下には、六年生がてつだいにいくので、このごろは、おかあさんがたはみえません。ただときどき、両親と先生の会の給食部の委員の人があつだいにきてくださいます。そしてこんだてのよしあしを考えたり、材料を手に入れることをせわしたりしてくださいます。

学校給食にかかる費用は、はじめ私たちの考えていたほどかんたんではなく、收入のほうでも私たちのおさめている給食費のほか、両親と先生の会からくるもの、市役所か

学校給食効果調査票 昭和 年度

氏名	男女	学年組		昭和年月日生		歳					
		4	5	6	7		9	10	11	12	1
測定	1 体長										
	2 身胸	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	3 欠日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
健状	4 病欠										
康況	5 顔色										
	6 元氣										
精狀	7 朗付										
神況	8 落付										
衛生	9 偏食										
訓練	10 咀嚼										
	11 食前の手洗										
	12 食事作法										
	13 家庭食が改善された										
備考	調査測定欄中										

1.は毎月測定のこと 2.3.の測定は4月9月1月でよい。
9.は偏食状態を無・やゝ有・有の三段階に区分記入すること
5.6.7.8.10.11.12.13.は良(○)・普通(△)・否(×)の三種
に区分記入のこと



市役所の内室にようす

というのをつくつて、受持の先生がしらべてくださつています。そのうちの体重は、先生のきめられた時間に、じぶんたちではかりあつて書きこみます。

給食材料のことや、せわをしてくださつてている人たちのことを、もつとよく知りたい

が元氣になつて、病氣で欠席する人も少なくなつたこと、食前に手を洗うために下級生でも手ぬぐいを忘れるものがなくなり、上級生では食事の際の清潔に注意するものがふえたこと、学校だけではなく家にかえつても食事のとき作法がよくなつてきたことなどが、今までにわかっている効果でしようといわれました。学校では私たちひとりひとりについて、ま

えのページのような学校給食効果調査票

らくるもの、政府で出しているものなどがあり、支出のほうにも設備や給料にかかるもの、材料にかかるものなどいろいろあるので、委員を出して、小林先生からゆづくり教えていただきました。

学校給食の効果については、衛生室の松本先生が主として話してくださいました。いっぱいにだんだんすききらいが少なくなつてきて、ねぎやにんじんをたべる人がふえたこと、一、二年生など、ことに學校給食を楽しみにしていること、みんな

と思つて、私たちが市役所にいつたのは、金曜日の午後でした。教えられた建物にいくと、入口に案内係のおじさんがいて、係の人のいるへやを教えてくれました。そのへやはいると、大きなへやのなかに事務机がいっぱいあつて、たくさんの人たちが仕事をしていました。仕事をしている人のなかには、若い女の人もみました。いくつもの卓上電話がさかんにかつやくしていますし、お客様らしい人が、あちらの机でも、こちらの机でも話をしていて、たいへん人が多く、またそぞうぞうしいのにおどろきました。どの人もいそがしそうで、だれに話したらよいかとまよいましたが、思いきつて入口に近い机にいた女の人のそばにいきますと、こちらをむいて「おや、何ですか。」といわれました。そこで、きたわけをいいましたら、いちばん奥の大きい机にすわっている人のところへつれていつてくださいました。やさしいお医者さんのような感じのする人でした。この人と、そのそばにすわっていた人とが、いろいろ私たちの質問に答えたり、お話をきかせてくださつたりしました。

すべて学校給食のために使う物資を受け取つたり配給するには、取り扱いの責任者を

きめてまちがいのないようにすること、市役所からはトラックで学校へとどけること、まきを手に入れるために、東北の諸縣などをまわつて頼むこと、物資の分配の際には、申しこみを受けたり、わりあてをしたり、通知をしたりするのに、非常にほねがおれ、いそがしいときには、二、三人がとまりこみで仕事をすること、今でも九時ごろまで、数人の人が残つて仕事をしていることなど、くわしく教えていただきました。市の学校給食委員会は、助役を委員長とし、経済部長・教育部長・教育部長・衛生部長が副委員長で、関係の多い課長や、業者の代表・学者・先生たちの代表などが委員になつてていること、とくに給食のせわをする係の人は、市役所では一二、三人であることもわかりました。

市役所の係の人たちは、学校給食をつづけていくための材料、その他の準備のほかに、学校給食が衛生的に行われることに、とくに努力をしているということを知りました。それは、傳染病が学校給食を通じてひろがつたり、給食による中毒が発生したりしないためと、日本人の食生活を、もつと清潔な衛生的なものにするための両方の目的からです。調理人や小使さんの検便を厳重にしたり、食器や服装や手や指を清潔にしたり、は

いをとつたり、料理のくずやたべ残しのものの処分法をきめたりするのは、みなそのためです。私たちの三度三度の食事が、栄養の点からも、衛生の点からも、ほんとうにつばなものにならなければ、給食の効果はまだ十分にあがつてゐるとはいえないのだといふことがよくわかりました。



七、ビルディングのしらべ

月 日

道 男

ぼくのおとうさんのつとめていらつしやる会社の事務所も、このまえ見学した工場をもつてゐる二つの会社の事務所も、みな同じビルディングのなかにある。となりの家のことでよくみえる弁護士さんの事務所も、同じビルディングのなかにあるそうだ。ぼくはおかあさんと買物にいつたついでなどに、一、二、三回おとうさんの会社の事務所によつたことがあるが、こんど田中君たちが、先生といつしょに、このビルディングをしらべてきた報告を見て、びっくりしてしまつた。

次のは田中君たち五人の報告だ。

一

廣い入口の右がわにならぶいくつものエレベーターのうち、ぼくたちは七、八階ゆきというのにのりました。

ビルのせわをしている事務所は、八階にありました。廣い事務室です。たくさんの人たちが、机にむかつて事務をとつてています。

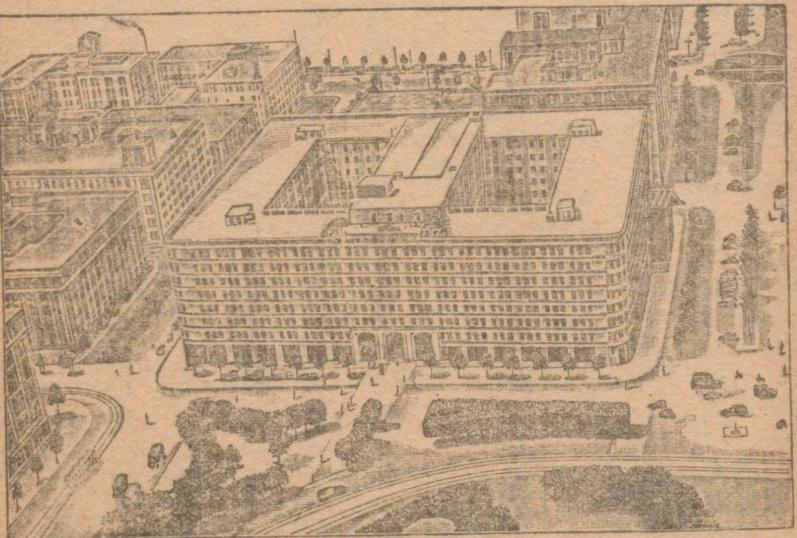
先生「きょうは生徒たちが、ビルディングの勉強にあがりました。おいそがしいところをすみませんが、いろいろ教えていただいたり、御案内をいただければ、生徒たちもどんなによろこぶことでしょう。」

係の人「先日はわざわざきていただいてすみませんでした。きょうは、用意してお待ちしていました。あとで常務からも話してもらうことにしてありますから、どうかゆつくりしらべていつてください。」

はじめにビルの見学です。へやを出て、ろうかを歩きました。その長さは、約一〇〇メートル、もう一方のは約八〇メートルだとのことです。長いのにおどろきます。右がわにも、左がわにも、たくさんのがわがあります。入口のドアのガラスには、どれも、〇〇会社、〇〇事務所などと書いてあります。これらは、みんな貸事務所です。

へやは各階に、約九九もあるので、へやをわかりやすくするため、階数を百の数字であらわし、次の数で、へやの番号を示します。それで八階のへや番号は、八〇一番から八九九番まであるということです。

八階をひとまわりしてから、九階のエレベーター室を見ました。電氣の機械がたくさんならんでいて、エレベーターが動くたびに、ものすごい音をたてたり、火ばなをちらしたりします。停電などでこここの機械がとまつたら、たいへんだと思いました。八階にもどつて、エレベーターで一階までおりました。一階にはいろいろなお店があります。どこも人でいっぱいです。



うお店へよりました。

「ここにお店ができてから二五、六年になります。お店の大きさは一二坪、店員は一二人います。このビルの生活はたいそう便利です。このなかに、銀行や郵便局をはじめ、いろいろなお店や食堂があり、お医者さんまでいるので、たいがいの用がたせます。それに外との交通にもめぐまれています。いなかから出てくる人も、ビルの名さえいえば、番地がなくてもすぐわかります。へやはかざをかけて帰れば、夜も心配はありません。電氣もガスも水道もあつて、今どき、天國というのはこんな所をいうのでしょうか。」

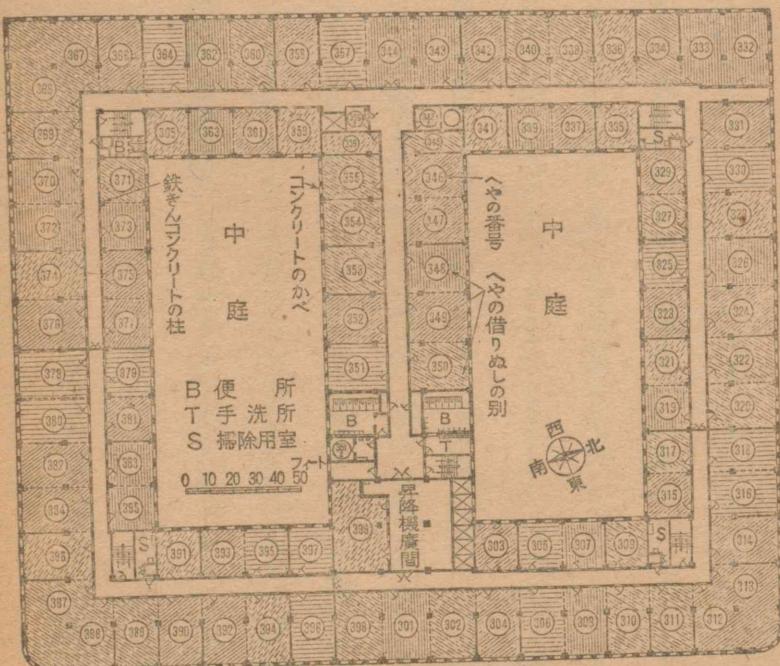
「こういうなかで生活していたら、日あたりがわるくて、健康にさしつかえませんか。」と加藤さんがきいたら、

「はじめのうちは、ビル病とかなんとかいわれて、心配した人もありましたが、別にこれという病氣にもかかりません。しかしほこりはなかなか多いし、日あたりもたしかにわるので、日中はこうたいで一時間ぐらいずつ、なるべく外を散歩するようにしてい

ます。私などは、ぼうしなしでくらしていますよ。」

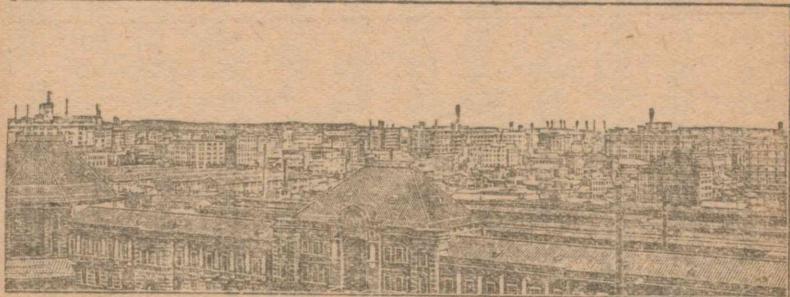
と、いわれました。

一階からさらに地下室へおりました。ここにも食料品店や大きな食堂があります。しかし、ここには事務所はなく、そのかわり、倉庫に利用しているへやが多いようです。ろうかのてんじょうには、太いのや細いのや、たくさんのがいのパイプが取りつけてあります。このうちには、水道やガスや電話線や、だんばう用





ビルの屋上からのながめ(2)



ビルの屋上からのながめ(1)

のパイプもあるとのことです。

とあるへやはいりました。ここは、このビルを夜中でも守る人たちのいるへやはです。見れば、ラジオ兼用の拡声器や、電話の交換器、電氣のスイッチなどのほか、火災受信器というめずらしい器械などもあります。大きな建物でもだいじな所は、案外こんなところにあるのだと思いました。

火災受信器は、このビル以外、ほかのいくつかのビルや消防署ともれんらくされており、消防用の水も、おたがいにパイプでつながっていることがあります。水は地下からモーターでくみあげ、ふたんは雑用水に使つているそうです。地下から歩いて、二階へ出ました。二階にもいろいろなお店ができていて、なかには外人むきのおみやげを賣るきれいなお店もあります。

三階からは、もうお店はなく、どこもみな賃事務所ばかりでした。

じょうひんな感じのする三階の日医者さんのおへや、温度計のかけてある五階の建築屋さんのおへや、ビルの人たちの休む八階の日本間などもみせてもらいました。

どこを歩いても、あいているへやはありません。へやのあくということはほとんどないほどよく利用され、全國に取引のある大きな会社や銀行の事務所が、このなかに集まっています。ここはいわば、大都市の心臓部ともいうべき所だとのお話になるほどと思いました。

二

八階の一室では、このビルを經營する会社の常務さんが、私たちを待つていられました。そうしていろいろなことを

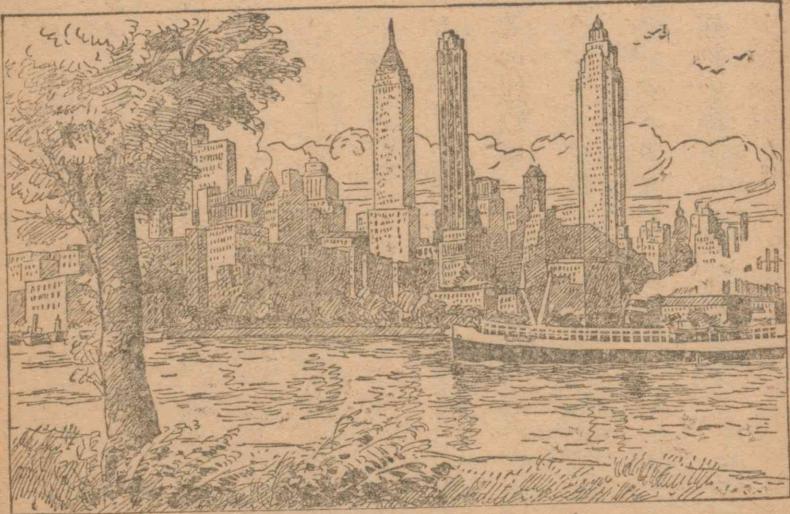
教えてくださいました。あらましを書くと、次のようなことです。

「ビルディング」というのは、つみあげられた高い建物をいう。しかしひと口にビルディングといつても、いくつかの種類に分けられる。たとえば、この建物のように、オフィス（事務所）の多いビルディングのほかに、百貨店になつているもの、ホテルやアパートになつているもの、めずらしいのでは自動車を入れるビルディングさえある。

このビルは、大正一二年の震災の年にできた。工事は当時五年間もかかるであろうといわれたのが、わずか二年あまりでできてしまった。それは、アメリカの会社が工事を引き受けて、能率のあがる方法をとつたためだつた。

この建物は、延員一五万以上の人たちの力によつてたてられた。そうして何千本というアメリカ松、六千トン以上の鉄材、一万数千トンのセメント、そのほか、砂やじやりや、タイルやれんなどがたくさん使われた。

建物の高さは、地上約一一〇フィート（約三三・四メートル）地下一〇フィート、ろうかの総延長は四キロあまりになる。東洋ではいちばん大きい。しかし高さでいうと、ア



ニューヨークの高い建物のむれ

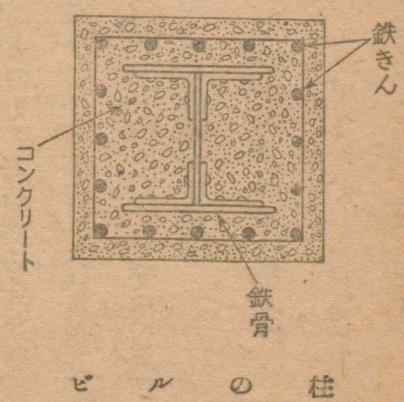
メリカにはとてもおよばない。ニューヨークのものはとくに有名だ。そこは地盤がかたい岩石からできているので、高い建物をたてることができる。わが國は地震の多い國でもあるから、建物は法律で高さを制限されている。

近代的なビルディングのはじまりは、一八八三年で、アメリカのシカゴの町に、一〇階のものがたてられた。ちょうど建物の柱になるじょうぶな鋼鉄が発明されたことが役に立つた。エレベーターができたのも、そのころのことだ。ビルディングの柱は略図のように鉄骨、鉄錠コンクリートでつ

くられている。

このビルでは、晝間と夜間とで人口がたいそうちがう。晝はふだん約七千ぐらいの人が事務をとつているが、夜はわずか五〇人ぐらいになる。これはオフィス・ビルの特色だ。日中は、ふつう約一〇万人の人が出はりする。』というようなことでした。

柱の平面図



74

田中君たちの報告をみて、ぼくの感心したのは、ビルのエレベーター室と地下室のことだ。しらべようという気がなくては、何度いってみても、そういうだいじな、そしておもしろい場所のことなど、知らないですごしてしまいからだ。この報告をみて、ぼくはなんだかビルディングというものは、ただの建物というより、機関室やブリッジのある大きな汽船のようなものだ、という気がした。

八、運動会

月

日

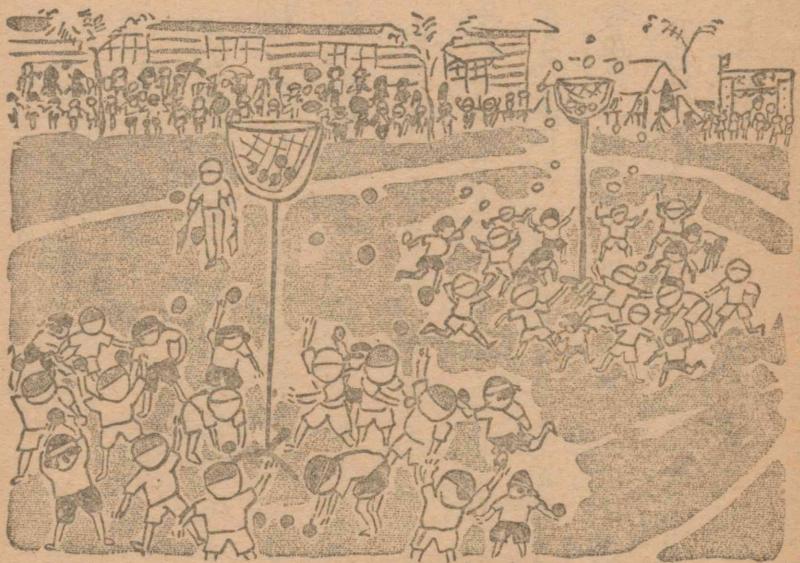
じゅん子

夕ごはんのあと、おとうさんは、「きょうはきみたちによいものをみせてあげよう。」とおっしゃつて、一通の手紙をお出しになりました。封筒のあて名には、安田先生おんもとへと書いてありました。おとうさんは、はじめにその手紙について説明をされました。安田先生というのは、おとうさんがまえにお教えになつたことのある若い女の先生で、しかもちょうど、おとうさんの中学校といつしょにある小学校につとめていられるかたです。家にも二、三回みえたことがあります。手紙はその安田先生にあてて、受持の五年生のおかあさんからとどけられたものだそうです。

私は、どうしておとうさんがそのような手紙をもつてこられたのか、とふしげに思いましたが、おとうさんはかまわず、かず子さんに、みんなによんできかせなさいといわれました。うちじゅうのものがきき耳をたてました。そのお手紙は次のとおりです。

75

安田先生



本日はほんとうにありがとうございました。秋ばれのよい一日を、うちじめうのものが、樂しく意義深くすごさせていただきました。子どもさんたちのいつしだきました。たださつた先生がたのおほねおりを思いうかべると、胸がせまつてきます。子どもたちは、もうすっかりまんぞくしてぐつくりねています。きっと樂しかった運動会の夢をみていることでございました。焼けあとバラックに、毎日毎日迫われるようにして生活している私たちに、

運動会

きょうの運動会は心からの楽しみをあたえてくれました。

ふたりも子どもがおせわになつていて、運動会には毎年おじやまさせていただいておりますが、ことしほど強い感銘を受けたことはありません。

もう九月の末ごろから、たびたび子どもたちは運動会のことを話しておりました。たみ子は、正男の運動服までぬつてくれました。はしまきや運動ぼうや運動ぐつも、自分たちであらつたりつくろつたりして、なるべく自分たちだけで準備をしようとしておりました。これはさいしょに感心したことの一つでございます。だんだんと子どもたちが、私たちを樂しませなぐさめるための運動会を計画していることがわかり、時代のかわってきたことをつくづくと感じました。私どものころには、運動会といえば、母に夜なべで晴れ着をつくつてもらつたり、父にいろいろ新しいものを買つてもらつたりしたものでしたのに、時代のちがいとはいながら、子どもたちもたくましくなつてきたものだと、主人と話しあつたことでござります。

間食物の少ないおりから、子どもたちが、運動会にはおべんとう以外のたべものはも

つていかないことにしたと申しましたときは、ほつといたしました。土地がら商賣のおうちが多いので、昨年など、思いがけないほど高價なおかしやくだものをおもたせになりましたが、私どもの家などでは、子どもがうらやましがりはしないかと、心配するほどでございましたが、ことしは、おひるに両親と先生の会の委員のかたがたのおせわで、間食をいただけることになつて安心いたしました。子どもたちも、かえつて、どんなものがないただけるかと思つて、楽しみにしておりましたし、じつさい、心のこもつた衛生的にもよく考えていただいたものばかりで、おおよろこびでございました。

たべのことばかりで、お笑いになるかもしませんが、あのいそがしい運動会に、子どもたちだけでなく五、六年生の家族のものにまで、副食物を出してくださつたことは、なんとお礼を申しあげてよいかわかりません。主食だけのおべんとうを運動会にもたせてやつて、自分たちの副食物までつくつていただけるというようなことは、なんとか夢のような氣さえいたしましたが、あのよう手ざわよく会食させていただいた今は、ただ感嘆し、先生がた、調理人のかた、委員のかたがたはもちろん、一心にせわしくこんだりしておりました。

れていた六年のお子さんたちに、感謝するばかりでございます。

校門のあたりに、あまりおおげさなかざりがなく、歓迎のことばを書いたものや、はつきりとした会場の案内図だけがかかけたり、先生がたが私たちをむかえてくださつて、ゆつくりごあいさつできたことも、うれしいことでございました。義男など、先生が名まえをよんでもあいさつしてくださいたことを、何度も何度もふしぎがつたり、よろこんだりしておりました。

会場をつくられるのにも、ずいぶんご苦心だつたこととおさつします。あとかたづけのときと同じように、中学の生徒さんもおてつだいくださつたのでしょうか。子どもたちは、まえのむしろの席で、私たちはうしろのいすの席で見物させていただけたことも、つごうのよいことでございました。それに同じ学級の家族のものをかためていただきないので、何かと親しく、ゆづりあいも自然に行われてうれしゅうございました。子どもたちが、「いくのいかないの、人数は?」と、やかましく聞いたしかめていたわけもよくわかりました。せつたいの生徒さんたちが、小さい子どもたちを便所や湯飲所につ

れていつたり、また、はじまるまえに、紙しばいをみせたりして楽しませてくださつたこともうれしいことでございます。

場内のアナウンスをはじめとし、司会や案内などが、ほとんど生徒さんたちの手で行われたことは、私たちをおどろかせ、また感心させました。このごろ、目だつてたみ子たちのことばやることが、はきはきしてきたとは思つております。

ましたが、あのようなことさえできるようになつたかと思うと、思わず涙がわいてまいります。

開会のはじめに行われた全校合唱も、楽しいものでございました。毎朝、やつておいでになる全校合唱も、どのように美しく楽しいものなのでございましょう。このごろ学区の子どもさんたちが、流行歌など口ずさまなくなつて、あのような唱歌やどうようと、幼い子どもまでがまねて歌うようになつてきたわけが、よくわかりました。

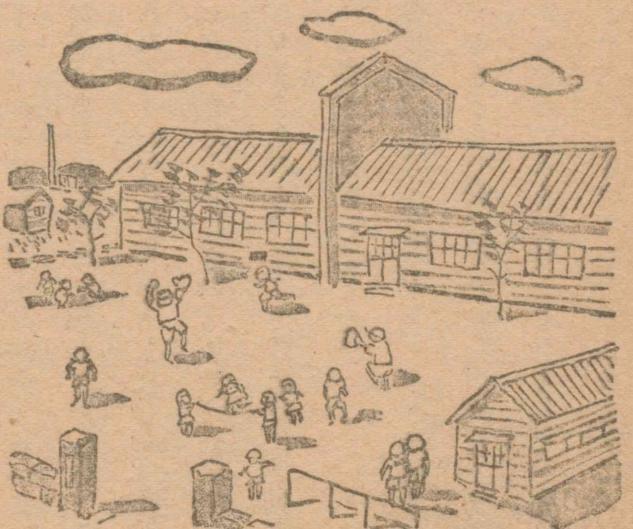
プログラムは、どれも興味深いものばかりでしたが、一年生のリトミックや二年生の

ゆうぎはかわいらしく、三年生のつな引き、四年生の騎馬戦などはかつぱつでございましく、五、六年生の競技やダンスは、統制がよくとれていて感心しました。先生がたのリレーや、おとうさんがたの競走、おかあさんがたの競走なども、子どもにかえつたような氣持がしておもしろうございました。家に帰つてから、子どもたちにほめられたり、笑われたりいたしました。ことしは例年にくらべて、競走がわりあいに少なく、プログラムがかんたんでしたが、どういうお考えだつたのでございましょうか。でも一時半におわりましたので、帰りに買物をし、夕飯のしたくもゆつくりとできまして、たいへんよいつごうでございました。

晝食後、たみ子の教室も、正男の教室も、拜見させていただきましたが、图画工作をはじめ、さまざまの学科の成績物が美しく展覽されていて、参考になりました。たみ子や正男からいろいろと説明をききまして、先生がたの御苦心をおさつしし、いよいよ感謝するばかりでございました。このように子どもたちが、元氣にゆたかな活動をするようになりましたことは、これから日本のためにどんなにたのもしいことかわかりません。



場内アナウンス



去年移植された、いけがきのかしも大きくなつて、いちょうも美しくいろづき、学校のみなさまのごたんせいのきくも、秋の日を受けて咲きほこつていました。私どもは、学校のそばをとおるたびに、学校が私たちの心にうるおいをあたえてくださいさつしていることを感じておりました。が、きょうはまた、あの木や草にもおとらず、私どもの子どもたちをすくすくとそだてていただいているありますを見て、ほんとうに感謝の念でいっぱいござります。主人もくれぐれもよろしくと申しました。

した。

学校を中心に、親も子もいよいよひとつ心にむすびついていくことをいのりつつ、お礼のごあいさつをおわります。学校のみなさまがたにも、どうぞよろしく、先生から私どものお礼の心持をおつたえくださいませ。

かず子さんはだんだん読んでいくうちに、少し声がふるえてきました。読みおわると、みんなちよつと、しいんとしました。道男さんがいちばんさきに「えらいなあ。」といいました。それから、そのときの運動会のようすを、みんながおとうさんにおたずねしたり、おじさんたちの子どものときの運動会の話が出たりして、にぎわいました。



九、街頭錄音

月 日

道 男

きのうの午後、駅のそばで街頭錄音があつたので、敬一さんと見にいった。小さなあき地に、人が二、三百人集まつていた。となりのビルの一階に錄音する機械がすえつけてある。ここでは錄音するだけでなく、発言する人の声が、集まつている人たちによくきこえるようなくふうがしてある。

あき地には、スピーカーが四つ五つあつて、話している人の姿は見えなくても、声はよくきこえる。あき地のまんなかに低い台があつて、その上に、放送局の人が三人立っていた。黒い野球ぼうをかぶり、街頭錄音班という腕章をつけている。そのなかのひとりが、長いコードのついたマイクロフォンを、話す人の口のそばにあてがい、アナウンサーが話を進めている。

ぼくたちがいつたときは、もうはじまつていたので、人のうしろの方になつてしまつ

て、話している人の顔がみえなかつた。だんだん人をおしわけてなかにはいってみると、話したいという人が、台の近くにならんでいた。集まつた人たちの意見に対し、政府の考え方や、仕事を説明するために、戦災復興院の人もみえている。この人はなかおれをかぶり、レインコートをきていて、少しふとつてはいるが、やさしい声の人だつた。

氣がついてみると、集まつている人々は、老人も若い人も、男も女もあり、服装も



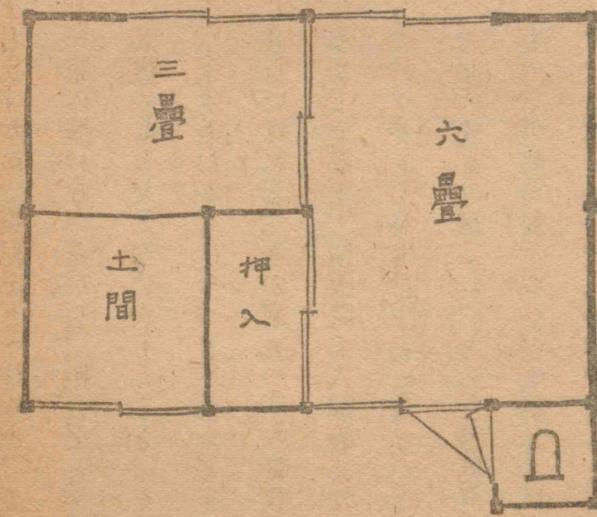
街頭錄音のスケッチ

さまざまだが、大学生がたくさんいた。また敬一さんのよ
うな中学の生徒もかなりいた。小学生は、ふたりばかり
へいの上にのぼつて見ていているのがいただけだった。
はじめ、家をたてるにはどうしたらよいか、ということ

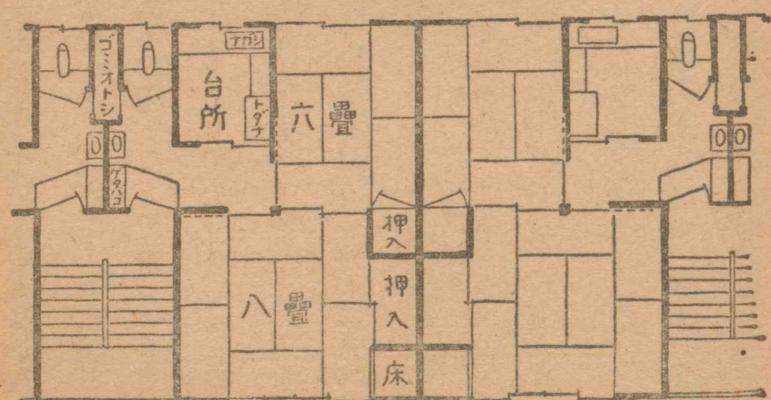
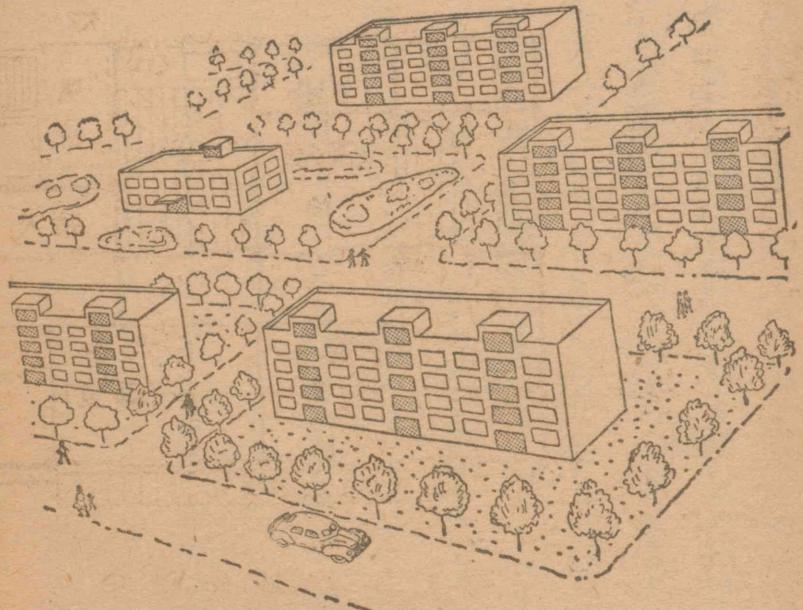
を中心に、おもいおもいの意見が出た。資金をどうするか、資材をどうするか、土地をどうするか、というようなことが問題になつた。家の焼けない人から、税金をとつたらどうか、という人もあり、家は焼けなくても、商賣のなりたたない人もあると、それに反対する人もあり、三角くじや宝くじのように、家のあたるくじをつくつたらどうか、というえかきらしい人の話もあつた。家はあたらないけれど、その家をつくる資金のあたるくじは、都道府縣で実施してもよいことになつていて、復興院の人人が答えた。しかし結局は、政府の手で安くてよい住宅、ことにアパート式の共同住宅をたててほしいという希望や、大邸宅やあいている建物をもつと開放するのがよい、という意見が強かつた。長いひげのおじいさんが、木や竹を少し使つて、土で家をつくつたらよいのだといつたが、少しこつけいなおじいさんで、きいてる人はおとぎ話のようだ、と笑つた。ぼくは、おじいさんの考えも研究してみたらどうかと思つた。

次には貸間についての意見をいうように、アナウンサーがたのんだ。中年のおばさんが、まえに政府が大住宅の開放を強く要求したとき、それではといって借してくれた家主

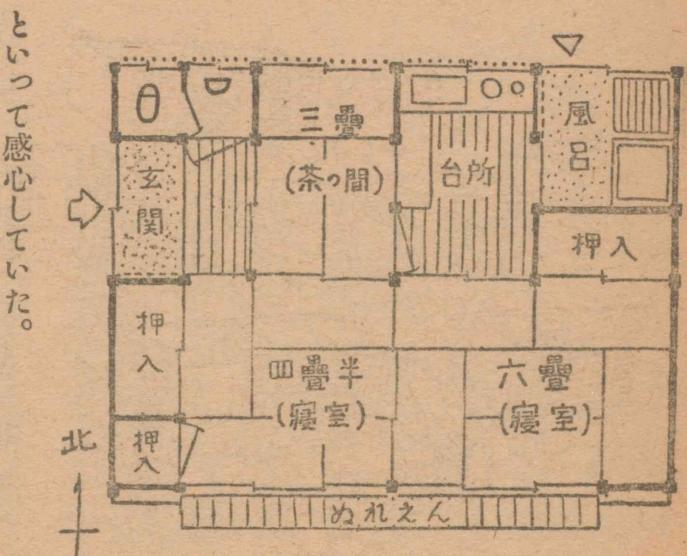
が、このごろ政府があまりやかましくいわないので、へやを借しておくのがいやになつて、理由をつけて迫いたてているのだと、悲しそうに話した。若い男の人が、大きな住宅やあいている事務所などを使えば、もつと貸間ができるといった。元氣のよいおばさ



応急簡易住宅



鉄筋コンクリート共同住宅



12坪の國民住宅

んが、私は家主のほうですがといつて、アパートをやつしていくのもなかなかたいへんだったことや、しかし貸す人も借りる人も、困ることや苦しいことをおたがいにうちあけていけば、おいたてたり、おいたてられたりすることはないと言っていた。アナウンサーが、おばさんのところでは、どのくらいのへや代ですかときいたら、四畳半で二〇円、六畳で三〇円です、と答えた。だれかが、なるほど安い

話は自然にまえにもどつて、住宅をたてることや、貸間をつくることになつたが、そのうち復興院の人に、ひとりあたりどのくらいの廣さを目指にして家をつくるかという

といつて感心していた。

質問がでたところ、おとなひとり二疊半から三疊であると説明された。たとえば、現在わが國の一家族を、平均五名とみて、六疊、四疊半、三疊に台所押入などをつけたくらいの、材料もせつやすく住みここちもよいという家や、コンクリートなどのもえないアパートを、多くたてようとしているということであつた。ぼくは、あまりそまつな家ばかりたてて、あとで困らないかと考えた。

時間がなくなつてくるにつれて、アナウンサーは、だいぶいそぎはじめた。話す人もなるべく同じことをいわないようにし、きいている人も、「だっせん、だっせん」とか「かんたん、かんたん」とかいって、なるべくたくさんの人からちがつた意見をきこうとしていた。資材の輸送に努力せよという人や、政府の計画を確實に実行してもらいたいという人などがあつた。

街頭錄音は、ただおもしろいからやるのではなく、たいせつなことがらについて、できるだけいろいろな人の意見をきいて、みんなの生活をよくしていくためのものだから、じょうずに話しをする必要があることがわかつた。

さいごに責任者から、貿易が再開されても、ほかに輸入しなければならない物資がたくさんあるので、住宅をたてることは、決して容易にはならないということ、統制に反して建築をすることが、政府の計画を実施する場合大きな障害であるということの説明があり、アナウンサーのお礼のあいさつがあつて錄音がおわつた。きいていた人たちもみな拍手して解散した。

解散後も二、三〇人の人が、復興院の人やアナウンサーをとりまして、質問をしたり、意見をいつたり、たのみごとをしたりしていた。放送局の人が、マイクや拡声器をとりかたづけても、やはりその人たちは熱心で帰らなかつた。

ぼくは、放送局の人に、この錄音は、いつ放送されるかときいてみた。係の人はわざわざほかの人にききあわせて、たぶん來週の木曜の夜になるはずです、と教えてくれた。敬一さんは、中央の台のそばにあつた大きなスピーカーみたいなものが、何をするものか、ときいた。これは集音機といつて、きき手の笑い声や拍手など、その場のありさまを示す音をおさめるものであつた。

敬一さんの話では、放送局の人たちは、きょう錄音したものを、うまくへんしゆうして、放送するのだそうだ。街頭錄音の放送をきいていると、すぐその場所から放送しているような感じがするが、係の人はさぞ苦心をすることだろう。

家に帰つてから、年鑑で住宅難のことをしらべてみたら、厚生省では、次のような推定をしていると書いてあつた。

戦災でなくなつた住宅は、被害建物二四六万戸のうち、二一〇万戸、強制疎開でなくなつたものは、取りこわし建物六一万戸のうち、五五万戸、両方をあわせると、二六五万戸で、戦前のわが國の住宅総数をだいたい一四〇〇万戸とすれば、戦争による減少だけを考えても、現在は一一三五万戸で、戦前の八〇パーセントしかない。

また都市だけをとつてみると、戦前六〇〇万戸が、現在は三三五万戸になり、五六パーセントしか残つていないことになる。

このほか、引きあげてきた人たちのために六七万戸、今後一〇ヶ年間に、世帯が増加するために入用になるものが一〇〇万戸、戦争中建設をみあわせたために必要になつて

いるもの一一八万戸、今後一〇ヶ年間に使用が不可能になるもの一〇〇万戸（火災および風水害によるもの五〇万戸、自然にくさつてしまふもの五〇万戸）があつて、住宅難をいよいよひどくしている。

これに対しても戦災死等のため需要の減少する分は、三〇万戸にすぎないそうである。

このことをしらべてみたり、ひとりあたりの住宅の廣さなどをきいたりすると、ぼくたちの家が、満員電車になつているのもあたりまえのような氣がした。

附記（この街頭錄音のあつたのち、戦災復興院は建設省になりました。）



一〇、銀行の仕事

月 日

じゅん子

貯蓄奨励の週間なので、きょう、私たち五、六年生は、銀行の人から、銀行や貯蓄についてのお話をうかがいました。なかなかむずかしいお話をしたが、原稿をもつておいでのようでしたので、先生にいつて、それを写させていたくことをおねがいしましたら、こちらよく貸してくださいました。たいそうきちんととした字で、はつきりと書いてありました。よくわからないところは、おじさんにおたずねして書きうつしてみました。

日本は元來、資源のない少ない國であつたところへ、敗戦の結果、方々の領土を失い、國土がせまくなつた上に、人口はいよいよましてきました。したがつて、このまでいくと、日本人はごくまずしい生活をしていくことさえもむずかしくなります。これをさけるには、炭坑の設備をよくしたり、こわれた工場を修理したり、鉄道や港をな

おしたり、住宅をつくつたり、新しい産業をおこしたりしなければなりません。このようなことは、みなさんもきいたり考えたりしたことがあるでしょう。もちろん戦後の復興のためには、外國からおかねや資材を借りることも必要ですが、まず私たち日本人の力で復興をはじめなければなりません。この復興をはじめるということに、銀行は非常に大きな役わりをもつています。

それはどんな役わりでしようか。

みなさんは銀行がどんな仕事をしている所か知っていますか。おとうさんやおかあさんが銀行についておかねを預けたり、引き出したりすることぐらいは知っているでしょう。たしかに銀行はみんなの家のおかねを預かる仕事をしています。この仕事は郵便局でもしていますね。

みなさんは、その預けたおかねがどこにいくか知っていますか。全部を銀行の大きな金庫のなかにいれておくのだと思つてゐる人はありませんか。金庫のなかにしまつておいて、預けた人が引き出しにきたとき、それを出してあげるのだったら、銀行は預かり

料をもらつてもよいわけではありませんか。そういう銀行があつたら、みなさんのおとうさんやおかあさんはそこにおかねを預けるでしょうか。

ところがどこの銀行も、預かつたおかねに利子というおかねをつけておかえしします。だから預かり料をとる銀行におかねを預ける人はありません。どうして銀行は、おかねを預かつた上に、利子をつけたりするのでしょうか。これはおかねを、またほかの人には貸すという仕事をしているからです。

銀行はみなさんのおとうさんやおかあさんから、おかねを借りて借り貯金をはらいます。その借り貯金が利子です。みんなのおとうさんやおかあさんは、銀行におかねを貸したとは思わないで、預けたと思つていています。その預けたおかね、すなわち銀行が借りたおかねを、銀行はおかねのいる人に、借り貯金よりもっと高い貸し貯金をとつて貸すのです。その貸し貯金もやはり利子といいます。だから借りるときの利子と、貸すときの利子とはちがうわけです。そのちがいが銀行のもうけになり、そこから銀行を経営する費用も出てくるのです。

みんなの家から預かつたおかねは、一軒一軒の分としては、あるいはごくわずかな場合もあります。しかしそれが集まると、なかなかたいしたものになります。それはちょうど、ちよろちよろ流れる小川が集まると、汽船のかよう大きな川にもなるようなものです。みんなの家からだけでなく、商店や会社や工場などからも、さしあたり使わないおかねを預かります。こうして預かつたおかねを、おかねのいる人や会社に貸します。今おかねの入用なのは、復興の仕事をしようとしている人々や会社です。もちろん銀行は、そのうちでも、将来おかねをかえすみこみのある、たしかな仕事をするところだけに貸します。このように銀行は、日本の復興に必要なおかねを集めて出すという役わりをもつてているのです。

ある工場は銀行から借りたおかねで、原料や燃料を買い入れ、肥料をつくつて農家に賣り、だいじな食糧の増産をたすけます。また他の工場では、銀行から借りたおかねで、機械をそなえつけたり、工員さんの給料をはらつたりして、織物をつくり、見返り物資として外國に輸出します。

ある会社では銀行から借りたおかねで、電車や自動車をなおしたりつくつたりして、交通を便利にするでしょう。

銀行で集めるおかねが多くなり、それがうまく使われることは、日本の復興のために、きわめてだいじなことです。

銀行がみんなの家のおかねを預かることは、そのような仕事のもとでをつくるといふほかに、まだまだ大きな意味のあることを知っていますか。

みんながおかねをもつていると、つい品物を買いたくなります。人々が今すぐいり用でもないものを買うようになつては、今の日本のように物のできかたが少ないときには、たださえたりない品物がいつそくなくなつてしまします。品物がなくなつてくれば、いくら高くてほしいという人がでてきて、物のねだんがあがつてしまします。そのようにして物のねだんがむやみにあがると、どんなに困るかは、みなさんもござんじのことでしょう。

このように、銀行におかねを預けるということは、日本の復興に必要なおかねを集めることにもなり、物のねだんをむやみにあげない一つの方法にもなるのです。なぜ貯蓄が奨励されているか、わかつていただけたでしようか。

銀行はおかねを預かつたり貸したりするほかに、おかねを送つたり、預金者のかわりにおかねをはらつたりする仕事もします。だから商賣をしている家では、たいていどこかの銀行を利用しています。

おかねを預かることでは、郵便局も銀行と同じですが、どういう点がちがうかわかりますか。郵便局のほうは、



大きな銀行の内部

政府でまとめて預かり、ふつうの銀行のほうは、民間で経営し、おもに民間の人や会社におかねを貸すのです。それに郵便局は、通信関係の仕事があるので、こみいつたおかねのことや、あまり大きな金額のものはあつかいません。しかし郵便局に預けたものは、証明さえあればどこの郵便局でも引き出せることができます。

銀行には預金係や出納係のほか、貸付係・爲替係など、たくさん係があります。各係がみなよく責任をはたすようにしないと、貸金がもどつてきても、そのおかねの利用方法がなかつたり、たしかでない仕事におかねを貸しすぎて、おかねがもどつてこなかつたりします。

事務の上でも、各係でまちがいのないように注意をしないと、銀行の仕事はうまくはこびません。野球でもひとりがわるい球を投げると、チーム全体がくずれます。銀行でひとりがまちがつた書類をつくれば、その書類のまわるところでは、帳面がみなまちがつてしまします。そうなると計算があわないので、その日の仕事がおわらないことになります。このような計算は、必ずその日のうちにぴつたりとあうところまでやらなければなりません。

ば、翌日になつて困るので、九時、一〇時になつても、関係のものが總がかりでしらべます。だから、いそがしければいそがしいほど、みんないつしょうけんめいになつて、一字のあやまりもないように注意します。

銀行につとめているものが、計算がじょうずで、字も正しくきれいなのは、あやまりを少なくするために、一心にれんしゆうするからです。



江戸時代の質屋

店がしまつてから計算をあわせ、おかねと帳面を金庫におさめてから帰るのですが、夜でも、だれか、金庫のある所にとまつていて、みなさんからの預かりものを守っています。

おじさんは、このほかに、日本銀行や勧業銀行・興業銀行のこと、勧業銀行では、三角くじや宝くじなどを賣り出しておかねを集めていること、なども話してくださいました。



一一、都市の氣分

道 男

ゆうべはあちこちにたつた年の市のことから昔ばなしに花がさき、東京・京都・大阪をはじめとし、全國各所の都市の氣分について、おとうさんたちが話しあわれた。ぼくたちは書き役だったが、たいそうおもしろかつた。

「おじさんがはじめて東京にでたときには、山の手にも、下町にも、江戸のなごりがたくさんあつた。山の手にはところどころまだ昔の武家屋敷も残つていて、そこに住んでいる人には、やはりじょうひんな、もの靜かなところがあつた。下町の店には、のれんをかけた紙屋とか吳服屋、油屋などがならび、そば屋や、うなぎ屋の店のようすも、なんとなくふるめかしくておもしろかつた。

そのころはまだ百貨店というようなものはなく、今の百貨店はみな吳服店だつた。吳服店といつても大きな三階建で、げそくで、はきものをかえて、店内をまわつたもので、

吳服のほかにも、いろいろな商品を賣つていたし、休憩室や子供の遊ぶへやのあるものなどもあつた。そのほかに勧工場といつて、たくさんのお店があつまつて、いろいろな品物を賣つている所があつた。これが今の百貨店のようなものだつた。一方の入口からはいつて、両側の店をみながらだんだん進んでいくと、上方へあがり、結局別の出口へ出でしまうというわけで、今の百貨店とはちがつて、ちょっと博覽会の会場のようだつた。おじさんはよく、上野の勧工場（博品館とよばれていた）を散歩したものだ。

下町では人間のいせいがよく、動作もきびきびしていた。お祭のときや年の市のときなど、町じゆうに活氣がみちあふれていたものだ。

よく神田明神の年の市にいつたが、今の露店などよりはずつと大きな小屋がけがいくつもできていて、きれいな羽子板が何十、何百とならべてあつたことをおぼえている。正月のおかざりを賣る小屋も大きなものだつた。みせものも出たし、露天商人も何町といふほど店をならべて、そのあいまい間に、がまの油うりなんかも出ていた。

電燈やアセチレン燈はまひるのようだし、あちこちでたき火はしているし、商人は商



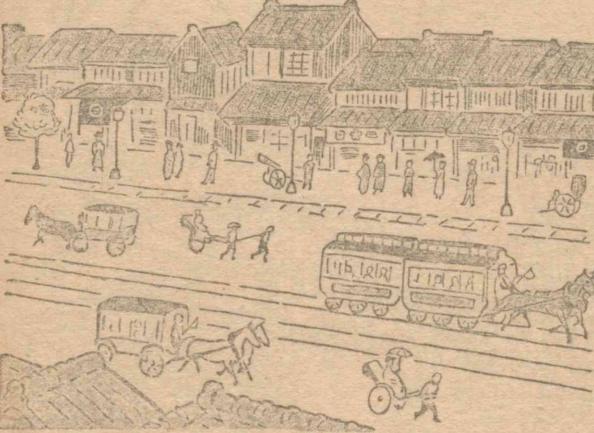
江戸(日本)橋

人で、おもしろおかしく、お客様をひきよせ、品物を賣ろうとするし、なんともいきおいのよいものだつた。寒い夜風のなかだのに、たくさん的人が店をひやかして、楽しそうに歩いている。なるほどこれがいせいをきそく江戸の氣分かとすつかり感心したことがあつたが、おかげでゆだんをして、すりにさいふをとられるという大失敗もやつた。

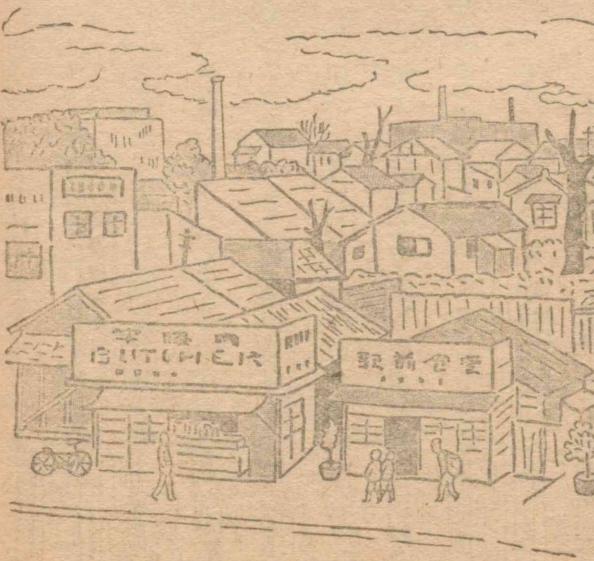
江戸つ子の氣分は、下町にいつて道をきいたときによくわかつた。ことばはあらつぱいけれど、あつさりしていて、だれにむかつても同じような氣持で、要領よく教えてくれる。さすがにこれは江戸つ子だと思つた。このごろ下町にいつてみると、震災や戦災でようすがすつかりかわつていて、さび

しい氣がする。

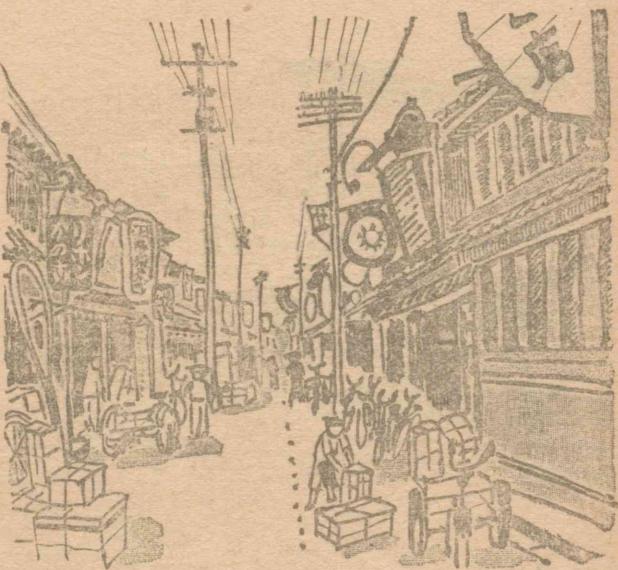
しかし、私は東京には、また何か新しい氣分が生まれてきているように思う。電車のなかなどは、人間のかざりけのない心持がそのままあらわれるものだが、みんなで助け



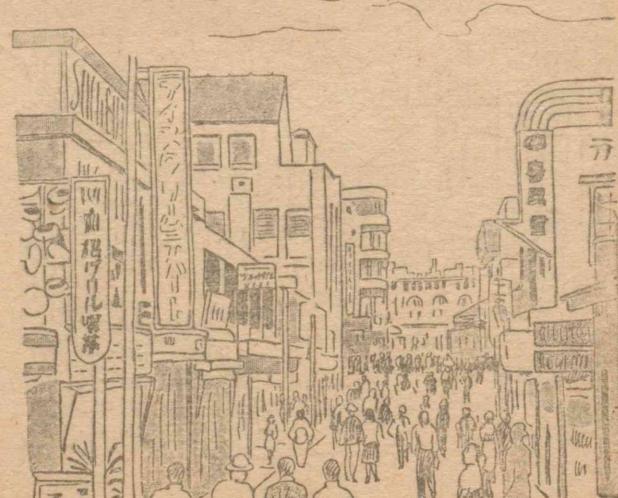
明治の東京(京橋)



現在の東京(高田馬場)



昔の大坂(船場)



現在の大坂(心斎橋筋)

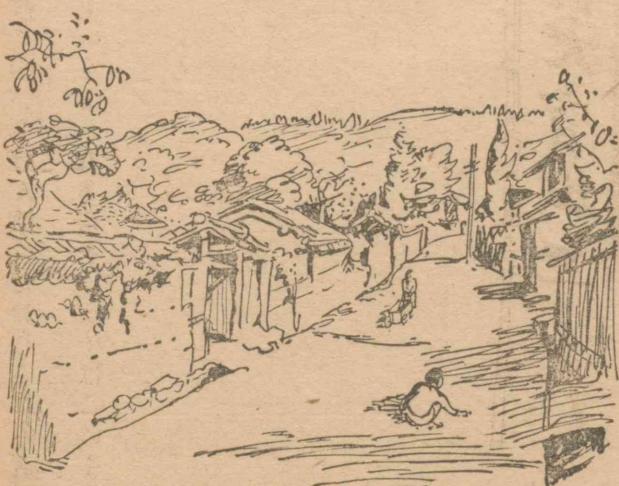
あい、もりたてていこうという氣分がたしかにわいてきている。今の都会の生活では、おたがいに名まえも知らないから何をしてもかまわないという氣樂さがあるので、とかく無責任になりがちのものだ。東京にもそういうところは大いにあるだろうが、一面、

知らないものどうしでも、おたがいに心をうちあけてつきあうという大きな氣持もそだてられてくるのではないかと思う。」

おとうさんの大阪の町の氣分についての話や、京都や奈良のお祭のことや、書いてお



京 都 (西本願寺門前町)



奈 良 (高 畠)



くはうがよいことは、ありすぎるほどだが、ぼくのいちばん感じたおじさんの話だけ書いた。おじさんのいう東京の町の新しい氣分というようなものを、ぼくはこのまえの街頭錄音のときに感じた。

一一一、お米の列車

月 日

道 男

ぼくたちはこのあいだから、お米とか野菜とか魚などが、生産地から都會に、はこばれてくるみちすじについてしらべているが、それについて先生からお話をきき、貨物駅の見学をした。はじめに先生のお話、次に見学のときのことを書く。

一

近所の鉄道の駅で、米だわらや小麦粉の袋、また材木やまきそのほかのものが、貨車からおろされ、トラックや荷馬車につまれて、はこばれていくのを見たことがあるでしょう。そのような貨物をおろすホームは、みなさんの乗降するホームとは少しはなれた別のところにあつて、そこでは貨車が一台ずつはずされて、あちらの線路にはいつたり、こちらの線路にはいつたりすることも、氣がついているでしょう。また貨車には、着駅、発駅その他のことを書いたふだがさしこんであることも知っているでしょう。

旅客は、列車が目的の駅にとまりさえすれば、自分で下車します。のりかえも自分でします。しかし貨物は、自分で下車したり、のりかえたりしません。第一、自分でのりこむということもありません。だから貨物や貨車には行く先のふだをつけて、人がそのせわをしてやるのです。それに重いものが多いから、のりかえさせることもたいへんです。それで貨車ごと、目的の駅まではこんでしまいます。したがつて鉄道の人たちからすれば、旅客をはこぶのと、貨物をはこぶのとでは、その氣のくばかりかたがまるでちがうわけです。その係もちがい、設備も別になっています。

旅客列車はきまつた客車をきまつた区間ひつぱつて往復していれば用がたりますが、貨物列車はそうはいきません。今いつたように貨物は、自分でのつたりおりたりしないし、人がつみおろしをするにしても、量が多いとずいぶん時間がかかるてしまいます。小口のものは別として、大口のものは貨車につみこんでおいて、貨物列車がきたら、そのまくつづけてやるほうが便利です。だから貨物列車は、走つていくにつれて、車をつけたり、はなしたりします。はなすのは、貨車が目的地についた場合です。このようには

なすということを考えると、貨物列車の貨車のならべかたはよほどくふうしておかないと困ることがわかるでしょう。うしろから順にきりはなしていくのなら、わりあいに樂ですが、いろいろいりまじつていたら、機関車は何度もいつたりきたりしなければならなくなります。だから貨車をうまくならべて貨物列車をつくること、すなわち貨物列車の編成という仕事は、たいせつな、またなかなか頭をはたらかす必要のある仕事です。

そんな仕事をどこでやっているか、知っていますか。大きな都会の近くには操車場（ふつうヤードといつてはいる）といつて、貨車をひとまとめにしたり、より分けたりする所があります。そこでは、短い時間でその仕事をやるよう、たいそうほねをおつています。この係の人は、全國の駅の名も、駅の順序などもほとんど暗記（あんき）しているほどです。操車場には、旗をふる操車係、ポイントを動かすてんてつ手、貨車と貨車を連結（れんげつ）する人、信号をあつかう人などがいますが、みんながいつも氣をそろえてやらないと、貨車をこわしたり、ちがつた線路へ貨車を送つてしまつて、ほかの貨車がはいれなくなつてしまつたりします。

操車場には、専用の機関車が何台もいて、晝も夜も、貨物列車の編成を、ほどいたり、またつくりあげたりしています。係の人たちも、一晝夜こうたいで働いているとのことです。

鮮魚をつんだ貨物列車や、お米をつんだ列車が、何本も、毎日きまつた時刻にここにはいってきます。そしてすぐ市場や倉庫のある駅へまわされるのです。

こういう操車場が大きな都市の近くにあるのは、大都市には各地方からたくさんのが物が集まり、またここからさまざまの貨物が、各地方へ送り出されるからです。だから大きな都市には、そういう貨物をつみこんだり、おろしたりする貨物専用の駅があることさえあります。

こうした貨物駅、またはふつうの駅の貨物ホームに到着した貨車は、はこんできた荷物をおろしてしまふと、またもとの発送駅まで送りかえさねばなりません。これも、貨物輸送のためにはだいじな仕事です。送りかえすためには、もう一度操車場まで引つぱつていつて、ここでほかからきた貨車といつしょに列車に編成し、毎日きまつた時刻に、

ここから貨物の待つてゐる駅へ出発させます。

各駅の貨物係は、毎日、自分の駅に集まる貨物の状況を各管理部へしらせます。各管理部は鐵道局へ、各鐵道局はさらに運輸省へ報告します。この報告にもとづいて、運輸省が全國九つの局にさしつし、局はその下の各管理部に、管理部はさらに各駅にさしつして、あいた貨車が遊んでいないように、つまり必要なところに必要な貨車がまわされるよう、手配するのです、その苦心はよういなことではありません。

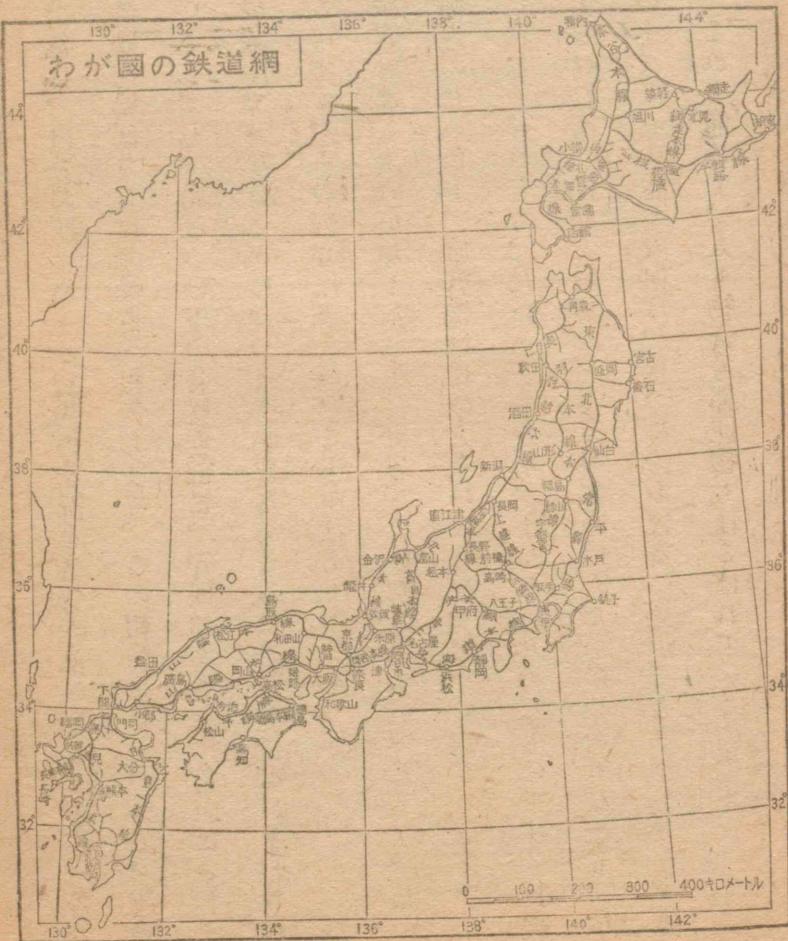
鐵道といえば、旅客をはこぶのがおもな仕事だと思つていた人も多いでしょう。しかし鐵道では、貨物輸送のためにも、旅客輸送におとらぬほねおりをしているのです。その苦心はあまり日だたないけれども、たいそう大きな、またたいせつなものです。貨物の輸送がうまくいかなければ、日本の産業はとまり、都市の人たちのお台所なども、たちまち困つてしまします。そのような例は、ほかにもあげることができるでしょう。鐵道は國の動脈です。これを通じて、人も物資も郵便物もはこばれているのです。

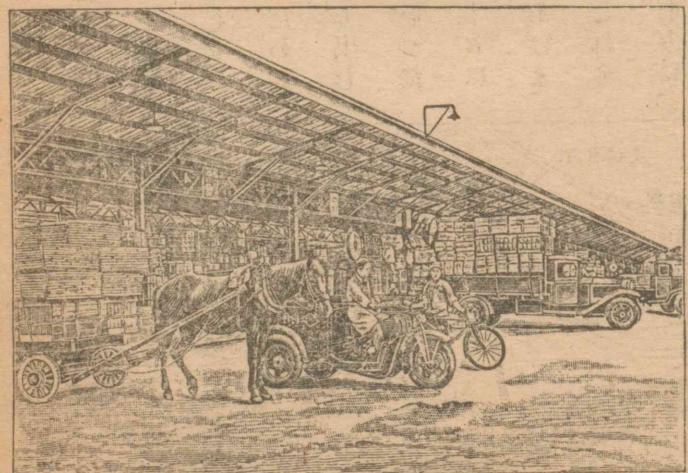
こんど、みなさんが見学にいく貨物駅は、明治五年に開通したわが國さいしょの駅の

あとで、構内には、

その当時のレールやホームの一部が記念に残されています。

次の図は、その貨物駅の地図です。線路がたくさんしかれていて、レールの総延長は一七キロに達します。

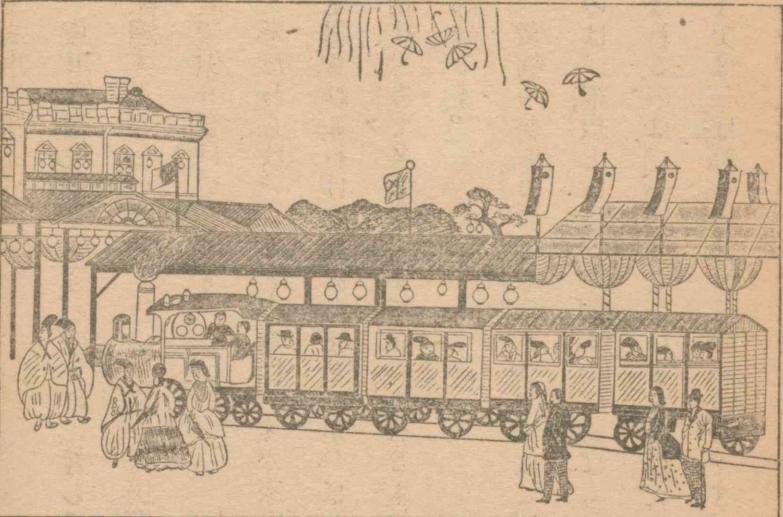




運ばん道具のいろいろ

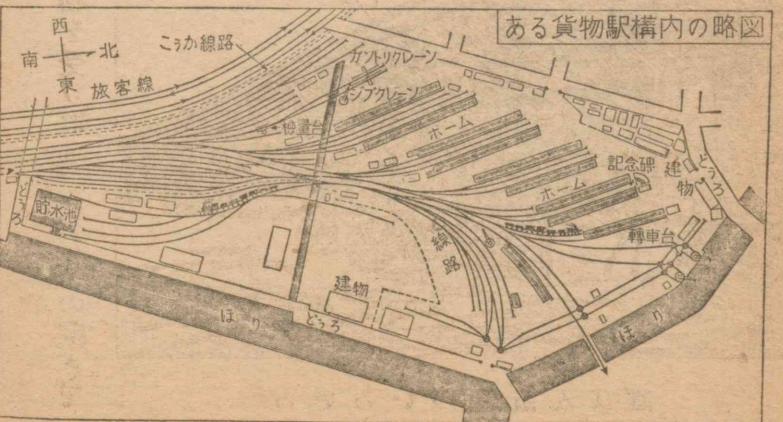
や馬車が集まつてきます。
貨車の運送を大運送といふのに對して、貨物駅から荷物を受け取り、私たちの家まで配達するのを小運送といふ、これは民間の会社で引き受けています。
米だわらは、今のところは、すぐ家庭まで配達されるわけではありませんが、ほかの荷物は、あて名の場所まで届けられるものが大部分です。

貨物のうちで、一車貸しきりではこぼれるのは、車扱といい、一個ずつばらばらにはこぼれるのは、小口扱といいます。私たちの家まではこぼれるのは、この小口扱です。このほか、私たちのよくチッキとよんでいる荷物



明治五年当時の新橋駅

貨車がホームへつくと、そこから米だわらを取り出しつみあげます。これを受け取りに、トラックやオートバイ



の送りかたもありますが、これは旅客列車ではこぼれるのがふつうです。

荷物はすべて、ついている荷札によつてあて名の家へ配達されますから、あて名をはつきり書き、荷札をしつかりつけておかなければならぬことはいうまでもありません。あて名がわからぬで配達のできない荷物が、この駅だけで一年に何万個もあるということです。

荷物の受け渡しはたいそうげんじゅうで、発送駅のホームで民間の会社から鉄道のほうに受けつぐとき、また到着駅で、その荷物が渡されるときなど、はつきり責任者がわかるようになっています。

二

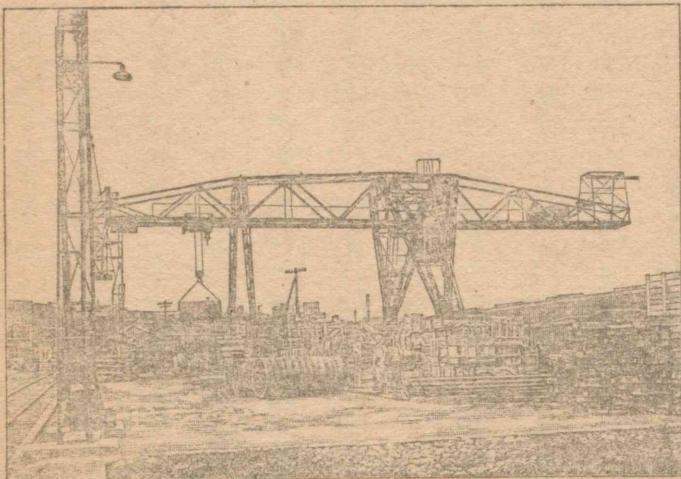
貨物駅の入口の近くに立つてみると、出たりはいつたりするトラックやオートバイの多いにおどろく。牛車や馬車もときどき出はいりする。ここが旅客駅の改札口にあるところだ。しかし、ここでは、出はいりの際は、すべて入口の門番から証明をもらう。

ホームにはたくさん荷物がつみあげられている。どしどしはこび出せれば、こんなにつみあげておかぬでいいのだがと、案内の助役さんがいつた。ホームではおおぜいの

人が働いていて、荷物を貨車につみこんだり、貨車からおろしたりしている。

起重機（じきき）が動いている。ジーンというきしる音をたてて、重い鉄の箱をぶらさげたまま、あとへさがつっていく。ガントリ・クレーンというのだそうだ。上下へも、左右へも、前後へも回転できる便利なもので、五トンの重さのものまでは、自由にあげさげできる。運轉台には、人がひとりいて、ハンドルを動かすだけで仕事ができる。

一〇トン用のジブ・クレーンというのもあつた。大きな貨物自動車をかるがるともちあげていた。このほうはぐるぐるまわるだけ



で、左右と上下にはこぶ役目をする。

川ぶちにも線路がしかれていて、船と貨車とのれんらくもできる。ちょうど船から大きな木材が、起重機で貨車へつみこまれるところだつた。船はだるま船で、一二〇トンづみのものだそうだ。これだけで、大型の貨車九台分の荷物をつんでいる。この木材は北海道からきた沖おきがかりの大きな汽船から、つみかえられてきたものだという。貨車がまにあわないと、だるま船はいく日もここで待たされることもあるそうだ。ほかに荷物をいっぱいんだだるま船が二はい、それより小型のてんま船が一ぱい、岸につながれて、番のくるのを待つていた。

川岸には、貨車の方向をかえるしかけがあつた。一つの貨車がその上へのると、土台のまま動かすしかけで、六人ぐらいの人でまわしていた。これなども機械の力でやつたらよいのではないかと思う。

貨車にいろいろな種類のあることもわかつた。大きさでいえば、一五トンづみと一〇トンづみとがあり、屋根のあるもの、ないものに分けることができる。そのうち鮮魚用

のものは、屋根うらに氷を入れることができ、貨車のまわりも二重で、冷蔵庫のようになつてゐる。野菜やくだものをはこぶものは、風通しのよいようにつくられてい。屋根のないものには、レールの長いものもある。

この貨物駅では、昭和一年には、一年間に、一六四万トンの貨物を取り扱つた。このうち、一一〇万トンが到着、五四万トンが発送だつた。到着が多いのは、大都市の消費地をひかえているためだ。

昭和二一年には九七万トンのうち、到着は、六七万トン、発送は三〇万トンで、やはり到着のほうが发送の倍以上だ。戦争中には二〇〇万トン以上にも達したが、終戦ですつとへり、まだだんだん回復していくようすを示してゐるそうだ。

到着する貨物は、米・麦・野菜・鮮魚などの食料品や木材・石炭などが多い。发送のほうは、とくにめだつものではなく、いろいろな工產品がふくまれてゐるそうだ。

この駅には駅員が三五〇人もいるところへ、民間会社からも毎日何百人という人がきて働いているということだ。

一三、百貨店での買物

月 日

じゅん子

おとうさんが、静養をかねて一〇日ほど、郷里のおじさんの所へいらっしゃるので、おととい、かず子さんと私とでおみやげを買いにいきました。品物についてはいろいろ意見が出ましたが、結局、お店へいつて品物を見なければわからないというので、ふたりにまかされてしまいました。金額は二〇〇円から三〇〇円までときめていただきました。

品物をあれこれ見るには、百貨店が便利ですが、百貨店にもそれぞれ特色があるので、かず子さんは○○へいこうといわれました。それは地方では、同じ品物でも、有名な百貨店で買つたものがよろこばれるからです。かず子さんは、きょうは少し時間をかけて百貨店の品物を見てみましょうといって、パンをもつて出かけました。

百貨店の入口には、いく人の人がたたずんでいました。交通の便利な所なので、人

を待ちあわせているのでしょうか。入口をはいるとすぐ地階におりて、じゅんじゅんに見ていくことにしました。とつぜん、にわとりがないのでびっくりしました。小鳥の賣物にチャボがまじっていたのです。ガラス器や食器類・台所用品・園芸用品などがちんれつされていました。ガラス器の所で、何かよいものはないかといろいろ見ましたが、かず子さんはあまり適当な品がないといって、一階にあがりました。

一階は化粧品・薬品・旅行用品・文房具と食料品が、ちんれつされていました。

ここでは、文房具だけがおみやげの候補になりましたが、おじさんのおうちに人

のだれにでもよろこんでいただけるかどうかわからないので、みあわせました。



百貨店のショウウインドー

二階には、書籍・おもちゃ・運動具・電氣器具・工藝品のほか、ぼうし・和服・洋服・ワイシャツなどの仕立^{しだい}を引き受けるところ、洋服のクリーニングを引き受けるところなどがありました。電氣アイロンなど、どうかと思いましたが、かず子さんは、いなかで電圧^{でんあつ}がよわいから、つごうがわるいかもしないといわれました。

三階には、いすや机・家具類・敷物・樂器・めがね・とけいなどを賣っていました。めざましどけいならおとうさんの荷物にもならないし、おじさんのおうちの人人が、だれでも便利ではないかということになりましたが、私はふと思いついて、トランプはどうか、とかず子さんにいました。かず子さんも、それはなかなかいい考えだと賛成してくださいさつて、もう一度、二階におりて、おもちゃのちんれつ場にいきました。かわいらしい人形や、乗物のおもちゃなどありましたが、トランプはみえません。かず子さんが店員さんにききましたら、あいにく今はないとのことでがつかりしました。かず子さんは、それでは、おもちや専門のお店についてみようといわれ、ちょうどひらかれていた南極捕鯨船の展覽会と、洋画の展覽会を見てから、外へ出て、おもちや屋についてみま

した。しかしどういうものか、ここでもやつぱりトランプは賣り切れていきました。それでとうとう一度もどつて、めざましどけいを買いました。

帰りは地階の喫茶室で、おべんとうをたべました。家へ帰つてからおとうさんたちに、めざましどけいとはよい思いつきだつたとほめられました。おじさんたちがよろこんでくださればよいがと思います。

百貨店で感じたこと、かず子さんや家へ帰つておじさんに教えていたただいたことを書いておきます。

- (一) 百貨店では、品物を賣るだけでなく、お客様のよろこびそういういろいろな仕事をします。
- (イ) 汽車のきつぶを賣る。
 - (ハ) 理髪をする。
 - (ホ) 結婚式場がある。
 - (ト) クリーニングを引き受ける。
- (二) お客様のために、できるだけ便利なようにくふうしています。
- (イ) 店内案内所・案内図がある。
 - (ハ) 公衆電話がある。
 - (ホ) 荷物の配達・発送をせわする所がある。
 - (ト) 店員は買つても買わなくとも親切にする。
- (三) 百貨店の品物は種類が多く、それにガラス戸棚や、ちんれつ台にならべてあるので、みやすく、衛生的で、價格もはつきりついています。品質も確實で、目方も正しく、ねだんもあり安いそうです。しかし特別の品物は、専門店にいかないとないものもあります。またふつうの店や露天市場などで賣つている品物で、百貨店にはないものもあります。そのかわり新しく賣り出したものや、めずらしいものがあります。お

もしろいことには、中古の道具類や工芸品などもあり、また委託販賣といつて、賣りたい人の着物や道具などを、手数料をとつてちんれつしている所がありました。こういう中古品や古本など、まえには百貨店では取り扱わなかつたそうです。

(四) 百貨店には劇場・映画館などがついているのがだいぶあります。まえにはこどもの遊び場所もついていました。

(五) 百貨店は、ふつうの小賣店にとつて大きな競争相手です。お客さんをみな百貨店にとられてしまつては、小賣店が困ります。問屋でも、百貨店のほうがたくさん買つてくれるし、店の信用もつくので、少しぐらい安くしても、百貨店に品物をまわします。お客様も百貨店だと、一度にいろいろな品物を見たり、買つたりできるし、それにねだんが安いというので、しぜん百貨店でよけい買物をするようになります。それでは小賣店は困つてしまします。だから小賣店のほうでも、組合をつくつたり、品物の種類をきめて、その種類についてだけは、百貨店よりよい品やめずらしい品をそろえている専門店になつたりして、百貨店と競争しようとします。それでももしろいことには、むずかしいそうです。



一四、これからの中の都市

月　　日

道　男

清君、お元氣ですか。ぼくの家のものもみんな元氣でくらしています。ときどき疎開していたときの話が出て、なつかしくなります。こちらでは、そろそろうめが咲きはじめましたが、そちらはまだ、ずいぶん寒いことでしょう。きみは元氣でスキーをしたり、温泉にはいつたりしていることと思います。ぼくたちもみんなで、もう一度お湯へはりにいきたいと話しあっています。

こちらも、このごろはずいぶん復興してきました。所によつては、昔とほとんどかわらないような場所もあります。しかし大都市として、はずかしくないようなものができあがるまでには、だいぶ時間のかかることでしょう。でもいつかはきっと、便利で健康に適した理想の都市ができることでしょう。

こんなことを書くのは、先日、役所から技師さんが学校にきて、將來の都市の話をし

てくださったからです、その話をきいて、ぼくたちは、みんなうれしくなりました。そしてぜひ、きみにもおつたえしたくなつたのです。

技師さんの話によると、都市復興計画のおもな目標としては、

- (一) 太陽の都市
- (二) なかましの都市
- (三) 楽しみの都市
- (四) 歩いて用のたどりる都市
- (五) 野菜の都市
- (六) 生産の都市
- (七) 文化的都市
- (八) もえない都市

が考えられているとのことです。

一の太陽の都市というのは、新しくできるがる都市を、「どの家のどのたたみにも、日のあたる町。」にすることです。

すべての都市を太陽の町にしようということは、今世紀のはじり以来、世界じゆうの都市の問題であつたといつてよいでしょう。

このような町をつくるためには、できるだけ廣い道路をつくります。緑地や公園も十

分ります。そして風上に、工場地帯をおかないようにします。それは工場から出るけむりやすすが、都市の空をおおうことのないようになります。

世界で太陽の町をこころみたさいしょは、英國のロンドンの郊外にある田園都市レッヂオースで、新しい土地へ、空地や緑地の多い人口三万の都市をつくったのです。その結果その町の死亡率は、千人あたり八人という低い率になりました。東京はこれまで千人あたり一六人で、將來は一〇人ぐらいにしたいのだそうです。

太陽の都市にするためには、住宅の敷地をひろげなければなりません。これまでの敷地の大きさは、市内では二〇坪がよいほうで、一〇坪・五坪、ひどいのは一坪でした。そういうねこのひたいのような土地に、すしずめになつていて、大都市の人には、みんな青い顔をしていたのです。私たちも疎開したときは、顔色がわるいので、きみたちにあやしまれたくらいでしたね。こんどは家々の宅地を、少なくも三〇坪以上とり、その七割以上はあき地に残したいというのです。

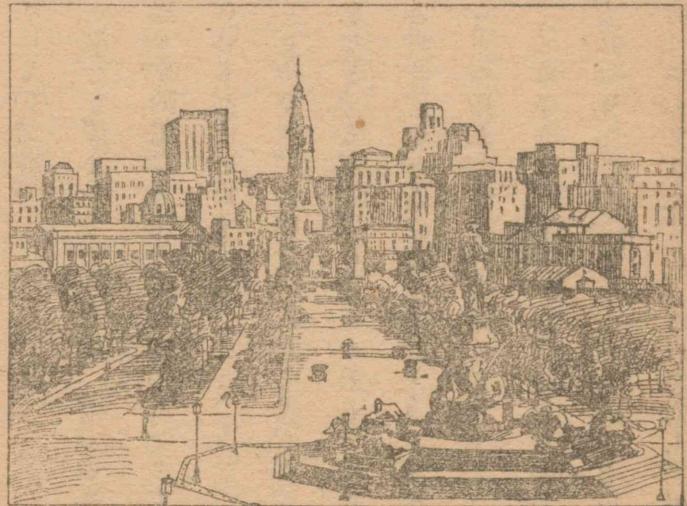
(二)のなかよしの都市というのは、どういうのでしょうか。これは、今までの大都市が、さばくのような感じの所であつたのを、もつとあたたかみのあるなかよしの町にしようといふのです。

昔、プラトンという人は、一つの都市のちょうどよい大きさは、その都市に住む人がおたがいに顔みしりになれるぐらいがよい、したがつてその人口は、三万ぐらいが適当である、といいました。

ヨーロッパの中世の人たちは、都市のまんなかに、廣場をつくることをくふうしたそです。人々は、そこに一日に一度は集まつて、話をしました。その廣場の大きさも、市民がそこに集まつたとき、廣場の片すみから、中央で話す人の声がききとれるくらいの大きさがよいとされてます。

日本の町は城下町から発達したものがわりあいに多く、そうした所は、いわば、町が城に向かつて横跡をつくつてゐるといった形です。これでは、市民のあいだの結びつきが、でききません。これに對して外國、とりわけヨーロッパの都市は、現在、廣場を中心として、円の形をつくつてゐるのが多いのです。こうした廣場こそは、都市の花と

もいつてよいものでしよう。



こんどの計画では、大都市をいくつかの大きな生活の区域に分け、それぞれの中心に大廣場を置き、その廣場のまわりに、区役所や公会堂などをつくります。そしてこの生活区域はどれも縁地帶で包むようにします。こうした区域は、だいたいの面積が一千万坪、人口は三〇万ぐらいとして、

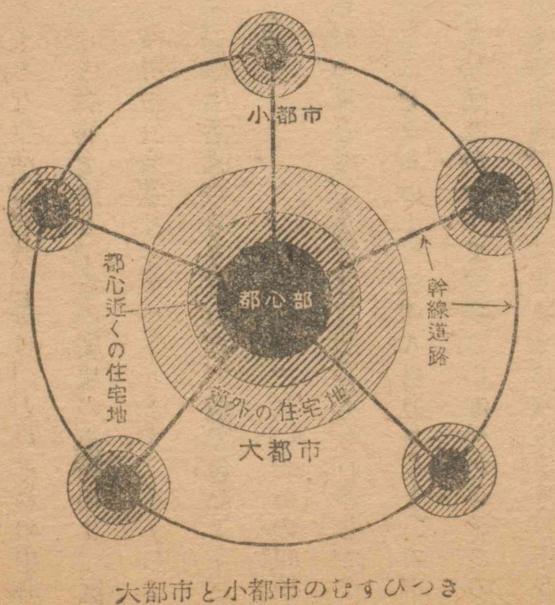
これをまたいくつかの人口五万ぐらいの小さな区域に分けて、そこにも、それぞれの小さな廣場をつくるようになります。そうすればおたがいに顔みしりのなかよしの生

活ができるというわけです。

(三)の楽しい都市にするにはどうすればよいでしょうか。そのためにはいろいろな設備をしたり、都市を美しくしたりするのです。

たとえば公園や、映画館・劇場・音楽堂・絵画館などを計画的につくります。それも都市を美しくするよううまくつくるのです。今までの日本の公園は、東京などでも、人口ひとりに対して〇・一四坪で、ニューヨークの一・八二坪、ロンドンの一・三三坪にくらべると、ほんとになさけないあります。だが、こんどは、樂しく明かるい公園を、大きなのも小さのともたくさんつくるのです。

水のほとりは、すべて緑の木や草花でかざります。ほりでも川でも池でも、みな縁で



つんで、水の公園をつくります。したがつて、町につき出た丘も公園となつて、よい
みはらし台がたくさんできます。

土曜日や日曜日に、家族がみんなで遊びにいけるようなかり場もできます。しかし、
それは今までのようなければしい場所ではなく、はじめから計画して、氣持のよいほ
んとうに楽しい所にします。

小学校のまわりにも、廣い運動場や綠地帯ができます。そうすれば、道路の上でキヤ
ツチボールをする人などはなくなるでしょう。

(四)歩いて用のたる都市といわれて、私たちはちよつと意外に思つたのでしたが、そ
れは、働く人ができるだけ自分の働く場所の近くに住めるようにするということです。
現在のように、町はずれや遠くの地方からなん時間もかかつて都会のなかへかよつてく
るので、朝晩かようだけで、くたびれてしまひます。

このためには都會の中心部を、住宅の多い方に移します。お役所や会社の事務所も移
すようにし、反対に工場の近くや都會の中心部にも住宅地をつくります。小学校・中学
校・高等学校・大学なども、交通の便利を考えて、うまくところどころにくばるよう
にするというのです。

(五)野菜の都市は、家々の宅地や郊外の野菜畠、また綠地帯の畠などをうまく利用し
て、都市に住んでいる人が、野菜の不足に困らないように、また新しい野菜が十分たべ
られるようにしようということです。

(六)生産の都市というのは、各種の工場や商店の場所をうまくとりあわせて、今まで
よりもずっとぐあいよく、生産が行われるようにすることです。工業地帯についていえ
ば、原料や燃料をはこぶ必要から、陸上や水上の交通の便利な場所で、工場のひろい敷
地もたやすく手にはいる所、つまり地價^{ぢけ}がやさくて、坂のない低地などをえらびます。
しかしいつぱうでは、そこから出すすやすけむりが、都市をおおうことのないようにな
る必要があります。

(七)文化の都市というのは、大学や図書館・映画館など、文化的な設備をよく考えて
つくった都市をいいます。図書館のとなりに工場があつたり、貨物駅の近くに大学があ

つたりするのでは、幽ります。イギリスあたりには、大学を中心とした都市ができるて、一本一草から水の流れにいたるまで、大学の歴史を思い出させるように保護されているということです。動物園や植物園も、大きくなものができなければならぬし、子どもたちのための文化設備もたいそう必要です。

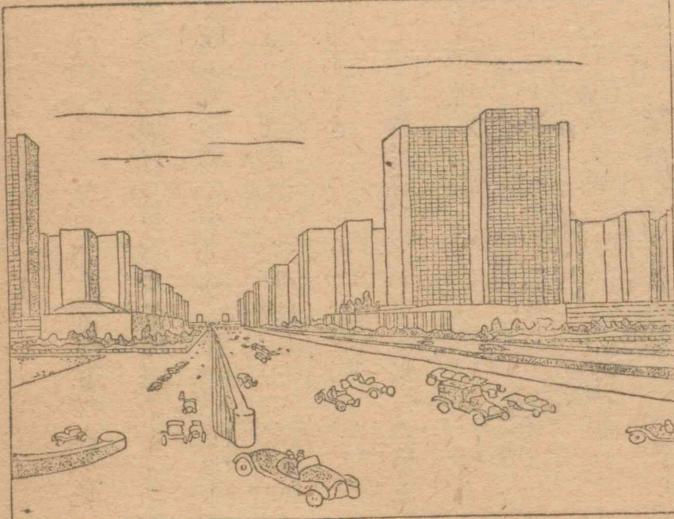
(八) もえない都市のことは、きみもそぞうできるでしょう。今までのように、もえるようになれていた町を、もえない建物、あき地や縁地をもつた、もえにくく都市づくりあげようというのです。

こうした計画がどしどし実行に移されていくのは、考へても胸のすくような思いがします。現に、私たちの目につくだけでも、はばの廣い道路をつくるために、ところどころにくいが立てられています。はば一〇〇メートルの道路もできるといいます。これまで日本の大都市では、はば四四メートルの道路が、いちばん大きなものでした。各駅の前に、廣場をつくり、そこへ並木でかざられた美しい廣い道路をひらくことなどは、もう計画にしたがつて仕事が進められています。

技師さんの話した將來の都市は、もう夢ではなくなっています。「わざわいを加えて福と/or>する」ということわざどおり、わが國の都市も、このような計画にしたがつて、じだいに復興していきます。

ぼくは、去年住宅難についての街頭録音をききにいつたとき、あまり一時しのぎの家ばかりたてるのはどうか、と心配しましたが、きょう、技師さんのお話をきいて安心しました。

しかしそうした都市の計画を実現していくためには、資材などの上からも、さまざまの困難がありますし、その上道路をつくる予定地にあつた家などは、この住宅難のおりにもかかわらず、たちのかなければな



都心部の一つの計画

らないのです。これもむずかしい問題だと思います。清君はどう考えますか。

山の方に住んでいて、こんな話を聞くとへんな氣がするでしょう。でもぼくは、都市の復興だけでなく、農村の復興も、日本全体の復興も、あの技師さんのお話のような、大きな計画にしたがつて実現していくのがよいのではないかと考え、御参考までにこの手紙を書きました。別に手に入れた地図類や絵なども送ります。

おからだをたいせつにしてください。おうちのみなさまにもよろしく。ではさようなら。



(附) 教師及び父兄の方へ

一、この本は、都市の生活に取材して、人間生活、社会生活に対する目をひらき、これについての知識を廣めるとともに、自分たちの生活に於ける各種の問題を発見させ、その解決のためにする活動に若干の資料を與えようとしている。

その意味でこの本は「私たちの生活」(一)「村の子ども」と対應しているが、むしろ資料をなるべく多く提供しようとつとめている。いずれにせよ、「村の子ども」も「都會の人たち」も、決して農村用、都市用として作られたものではなく、根本的にはどちらにも共通する問題をとり上げていき、その相互の理解を深めることをめざしている。

けれども、そのようなねらいに対しても、この本は決して十分ではない。だからこの本を読ませたり理解させれば、それで社会科の学習がおわったと考えたり、無理をしてもこの本に書いてあることだけは理解させなければ、社会科の学習が成り立たないと考えたりしては困る。むしろ兒童用の参考書の一種として取り扱っていただきたい。

この本は、兒童の文章の形式で書かれているが、決して作文の模範とはなり得ないものであることを注意してほしい。兒童の社会科の学習帳をこのような作文でうすめることを考えたりするのは、だいたいにおいて非常に無理なことである。

二、兒童たちはこの本を読むことによつて、いろいろな研究問題を發見したり、また自分たちの

生活を向上させる計画を立てたりするであろう。教師や父兄は、児童たちのこのような動きを利用して、社会科の学習を発展させていただきたい。また教師は自分の予定した学習活動に児童を導入したり、その活動を発展させるためにも、この本を利用することができます。

三、急速に移りかわっていく都市生活の各種の事実についての叙述は、教師及び児童の手で修正されていかなければならない。児童たちが、印刷された本に書いてあるからといって無批判に受けいれることのないように、指導を加えてほしい。

四、五六年の児童用書として、「私たちの生活」(一)(二)(三)(四)が刊行されたが、その様式やねらいが少しずつかわっている。教師ならびに父兄の方の批判を参考して、今後さらに附加すべき児童用書の様式やねらいはもちろん、内容をも考慮していくべきであると考えている。その意味で、各冊ごとに、これに対する批判や忠言を寄せていただきたい。

「私たちの生活」総索引

一、配列はアイウエオ順です
二、算用数字は巻、和数字は頁を示します

ア	アイヌ人	アスバラガス	アラビア
イ	青森縣	あぜくらづくり	イギリス
ウ	阿賀(あがの)川	阿蘇(あそ)山	有明(ありあけ)海
エ	秋田(あきた)縣	阿武隈(あぶくま)川	安全裝置
オ	あぐり網	アフリカ	アラビア
ア	あさ	アマゾン盆地(ほんち)	イギリス
ハ	旭川(あさひがわ)	尼崎(あまがさき)	家
ヒ	アジア大陸	網元(あみもと)	飯塚(いいづか)
エ	足利(あしかが)	雨	生駒(いこま)山脈
ヘ	安治(あじ)川	アメリカ	石置屋根(いしおきやね)
オ	芦湖(あしのこ)	アメリカ合衆國	石狩(いしかり)炭田
ア	アッスワン	荒川	石狩平野
ハ	安土(あずち)	あらし	石川縣
ヒ		アラスカ	石山本願寺
エ		荒浜(あらはま)	いしわた
ア		伊豆諸島	伊豆(いづ)

カラフト
 狩勝峠 (かりかつとうげ)
 火力発電
 軽石 (かるいし)
 カルデラ
 カルメット
 カロリー
 河村瑞軒 (かわむらざいけん)
 岩塩 (がんえん)
 カンガルー
 乾期
 がん木
 漁港
 漁場 (ぎょじょう)
 漁村
 共同炊事 (すいじ)
 清水焼 (きよみずやき)
 霧島 (きりしま) 火山帶
 桐生 (きりゅう)
 金華山沖 (きんかざんおき)
 近畿 (きんき) 地方
 銀行
 九十九里浜
 久能山 (くのうざん)
 熊谷 (くまがや)
 組合 (くみあい)
 蔵屋敷 (くらやしき)
 タリーム
 黒潮
 黒部 (くろべ) 川
 クロマグロ
 クロール
 群馬

1 1 1 3 4 1 3 2 3 4 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 3 1
 一元

【ヶ】
 群馬縣
 経済 (けいざい) 部長
 経線 (けいせん)
 慶長 (けいちょう)
 京浜 (けいひん) 工業地帶
 げし
 結核菌 (けっかくきん)
 檢地 (けんち)
 ケンチンじる
 遣唐使 (けんとうし)
 檢便 (けんべん)
 元祿 (げんろく)

3 2 4 4 3 2 3 3 2 4 3 3 3 4 2
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 4

公園
 黃河 ホワソ川
 紅海
 興業 (こうぎょう) 銀行
 貢砂 (こうさ)
 公衆衛生 (えいせい)
 甲州街道 (こうしゅうかいどう)
 工場長
 降水量 (こうすいりょう)
 厚生部長
 耕地整理
 交通局
 公定價
 興福 (こうふく) 寺
 甲府 (こうふ) 益地
 神戸 (こうべ)
 鉱脈 (こうみやく)
 小賣店
 香料 (こうりょう)
 小運送 (こううんそう)

2 4 2 3 3 3 1 3 3 2 2 1 2 4 2 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 2 4 1 3 3 3 1 3 1 3 1 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 3

カラフト
 狩勝峠 (かりかつとうげ)
 火力発電
 軽石 (かるいし)
 カルデラ
 カルメット
 カロリー
 河村瑞軒 (かわむらざいけん)
 岩塩 (がんえん)
 カンガルー
 乾期
 がん木
 勸業 (かんぎょう) 銀行
 勸工場 (かんこうば)
 かんじき
 寒帶地方
 干拓 (かんたく)
 神田上水 (かんだじょうすい)
 神田明神 (みょううじん)
 寒天 (かんてん)

3 2 3 3 4 4 2 2 4 4 4 3 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 3 2 3 3 4 4 2 2 4 4 4 3 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 3

関東地方
 関東平野
 ガントリ・クレーン
 桓武 (かんむ) 天皇
 管理部 (かんりぶ)
 寒流

気圧計
 気温
 起重機 (きじゅうき)
 氣象 (きしょう) 觀測所
 岸和田 (きしわだ)
 季節風

木曾川
 木曾五木 (きそごぼく)
 木曾路 (きそじ)
 木曾谷
 木曾の森林鐵道
 北アメリカ
 北浦 (きたうら)
 北回帰線

4 3 4 3 3 3 3 4 4 3 3 2 4 4
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 4 2 3 2 3 3 3 4 2 1 4 4 3 4 2 1 4 4 3 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 4

九州
 宮城
 給水所 (きゅうすいじょ)
 基布 (きふ)
 着物 (きもの)

教育部長
 供出 (きょうしゅう)
 行商 (ぎょうしょう)
 牛乳
 着物 (きもの)

北上 (きたかみ) 川
 北九州工業地帶
 キナ
 ギニア湾
 キハダ

4 3 4 3 3 3 3 4 4 3 3 2 4 4
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 4 2 3 2 3 3 3 4 2 1 4 4 3 4 2 1 4 4 3 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 4

1 1 1 1 3 3 2 1 1 2 1 1 2 3 4 3 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 1 1 1 1 3 3 2 1 1 2 1 1 2 3 4 3 3
 一元 二元 三元 四元 五元 六元 七元 八元 九元
 1

社宅	シャングル
朱印船	(しゆいんせん)
集音機	(しゆうおんき)
從業員組合	
住宅難	じゅうそう
縮尺	(しゆくしゃく)
宿場	(しゆくば)
宿場町	
狩獵	(しゆりょう)
城下	(じょうか)
小公子	
正倉院	(しょうそういん)
蒸氣機関	(じょうききかん)
常磐	(じょうばん)
炭田	
植針機	(しょくしんき)
食物	
じょちゅうぎく	
助役	

新宿 (しんじゅく)	錘 (すい)
新庄 (しんじょう)	水産会社
神通 (じんつう) 川	スイス
針布 (しんぶ)	水稻 (すいとう)
新聞	周防灘 (すおうなだ)
	スキ
	助郷 (すけごう)
	スコール
崇神 (すじん) 天皇	すそ野
隅田 (すみだ) 川	スルメイカ
諫訪 (すわ) 市	諫訪盆地

三音一元二元三元四元五元六元七元

セーヌ	瀬戸内海	石灰	赤血球	生活共同組合
ゼムリヤンカ	瀬戸内（せとうち）	セツカイ	セツブ	セイドウ
全校合唱	うのちんこうそく	セツカイ	セツブ	セイドウ
戦國時代	瀬戸内（せとうち）	セツカイ	セツブ	セイドウ
瀬田川	セツタガワ	セツカイ	セツブ	セイドウ
関所	セキショ	セツカイ	セツブ	セイドウ
赤道	セキド	セツカイ	セツブ	セイドウ
精紡機	セイボウキ	セツカイ	セツブ	セイドウ
精紡機	セイボウキ	セツカイ	セツブ	セイドウ
関が原の役	セキハラノエフ	セツカイ	セツブ	セイドウ

三 吾 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
八 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
七 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
六 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
五 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
四 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
三 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
二 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二
一 八 毛 美 雪 三 三 三 一 三 二 三 二

小口坂	黒耀石
兒島	(こじま) 湾
小谷狩	(こだにがり)
黒河	(こっか)
ゴビさばく	
古墳	古墳時代
コモリネズミ	
コーリャン	
コロナド川	
コンゴー盆地	
西國	(さいごく)
埼玉	(さいたま) 縣
堺(さかい)	
境(さかい)港	
坂出(さかいで)	
佐賀縣	
相模(さがみ)川	

三二三三三四三 四四三四四三三三四四三三一三二
十四表毛矣云四五五六六六三三三三三元三一

作業 (さぎょう)	部長 (ぶじょう)
薩南 (さつなん)	諸島 (しょとう)
札幌 (さっぽろ)	鎖國 (さこく)
佐渡 (さど)	
讀岐 (さぬき)	
讀岐平野 (さぬきへいや)	
さばく	
サハラさばく	
狹山池 (さやまのいけ)	
山陰 (さんいん) 地方 (ちほう)	
三角洲 (さんかくす)	
三河 (さんが) 地方 (ちほう)	
参勤交代 (さんきんたいあい)	
山村 (さんむら)	
【シ】	
滋賀 (しが) 縣 (けん)	
シカゴ	

2 4 3 3 4 3 3 3 4 4 4 4 3 4 3 4 3 3 3 4 3 2
壹 一 五 毛 壴 云 一 廿 三 夷 交 兮 一 元 三 云 穿 一 元 云 吾 一 云 一 云

資源 四國	静岡縣 下町（したまち）
じっけ	実況放送
じつけ	湿度（しつど）
信濃（しなの）川	ジバング
ジブクレーン	じびき網、シベリア
清水	下縦（しもふさ）台地 車扱（しゃあつかい） 市役所

二元六丙癸一壬午孟丑巳酉三元九丑酉一七

聖心花園院 (ふじこうりん) 2
仙台 (せんだい) 2

全 3

操車場 (そうしゃじょう)
疎開 (そかく)

三 2

促成 (そくせい) さいばい
そこなだれ

二 2

そこびき網 (そくびきあみ)
そり

一 2

大運送 (だいうそう)
大使館 (たいしきん)
隊商 (たいしょう)
ダイス
大西洋 (だいりょうがたん)
太風 (たいふう)
太平洋 (たいわうよう)

三 2

貯水池 (ちよすいけ)
地理調査所 (り地圖査所)
チンブクツ

一 2

【ツ】

通商産業省 (つうしょうさんぎょうじょう)
筑紫 (つくし) 平野 (へいや)
つけ物 (つけもの)
対馬 (つしま) 海流 (かいりゅう)

四 2

ツブルクリン反応 (はんのう)
積出港 (づみだしこう)
つれづれぐさ

三 2

【テ】

鉄器時代 (てききじだい)
デッスルベレー (デスルベレー)
鉄道局 (てつどうきょく)
手取 (てどり) 川 (かわ)

三 2

田園都市 (でんえんとし)
大陸低氣圧 (たいりくていきあつ)
台灣海峽 (たいわんかいきょう)
台湾 (たいわん)
田うえ歌 (たうえうた)
高潮 (たかしお)
高田地方 (たかだちほう)
但馬 (たじま)
タグラマカン (タグラマカン)

二 2

種も鳴 (たねもなき)
多摩 (たま) 川 (かわ)
玉川上水 (たまがわじょうすい)
炭鉱町 (たんこうまち)
探照燈 (たんとうとう)

天氣予報 (あめいよほ)
てんぐさ
てんさい
天正十一年 (てんじょうじゅういちねん)

傳染 (でんせん) 病 (びょう)
天然ガス (てんねんガス)
天龍 (てんりゆう) 川 (かわ)

ト 3
ドイツ (ドイツ)
東京 (とうきょう)
島後 (とうご)
東海道五十三次 (とうかいどうごじゅうさんじ)

三 2

鳥かん図 (とりかんず)
中世 (ちゆうせい)
中禪寺湖 (ちゅうぜんじこ)
中原 (ちゅうげん)
築港 (ちっこう)
茅野 (ちの)

筑豊 (ちくほう) 炭田 (たんたん)
千島海流 (せんとうかいりゅう)
治水事業 (ぢすいじぎょう)
チチハル

茶つみ歌 (ちつみうた)
中原 (ちゅうげん)
朝鮮 (ちょうせん)
朝鮮海峡 (ちょうせんかいきょう)
中韓 (ちゅうかん)

4 3
豊臣 (とよとみ) 氏 (じ)
豊臣秀吉 (とよとみひでよし)
利根川 (りねがわ)
富岡 (とみおか)
富山 (とやま) 縣 (けん)

三 2

谷風 (たにかぜ)
種も鳴 (たねもなき)
多摩 (たま) 川 (かわ)
玉川上水 (たまがわじょうすい)
炭鉱町 (たんこうまち)
探照燈 (たんとうとう)

4 3
天氣予報 (あめいよほ)
てんぐさ
てんさい
天正十一年 (てんじょうじゅういちねん)

5 3
鳥かん図 (とりかんず)
中世 (ちゆうせい)
中禪寺湖 (ちゅうぜんじこ)
中原 (ちゅうげん)
築港 (ちっこう)
茅野 (ちの)

6 3
筑豊 (ちくほう) 炭田 (たんたん)
千島海流 (せんとうかいりゅう)
治水事業 (ぢすいじぎょう)
チチハル

7 3
茶つみ歌 (ちつみうた)
中原 (ちゅうげん)
朝鮮 (ちょうせん)
朝鮮海峡 (ちょうせんかいきょう)
中韓 (ちゅうかん)

8 3
豊臣 (とよとみ) 氏 (じ)
豊臣秀吉 (とよとみひでよし)
利根川 (りねがわ)
富岡 (とみおか)
富山 (とやま) 縣 (けん)

地帶電發船機動

一四四四一三一三一三三三一一四四一一二二
堯一八夫夫堯三三三堯三合哭哭哭哭哭哭哭哭
堯三三三三三三

播州赤穂（ばんし 阪神工業地帶 パンの実	BCG
東印度諸島	【ヒ】
避寒地（ひかんち	
飛脚	
ピート	
美唄（びばい）町	
氷室（ひむろ）	
百貨店	
ひょう	
肥料（ひりょう）	
ビルディング	
琵琶（びわ）湖	
品種改良	
ビンナガ	

一 4 3 3 2 1 4 2 2 4 3 3 1 4 4 2 4 3 1 4
三 二 三 一 三 充 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

風車	風速
フエトン	
福岡（ふくおか）縣	
福島縣	
ふくらし粉	
武家屋敷（ぶけやしき）	
富士火山帶	
富士川	
富士五湖	
富士山	
富士宮	
富士箱根國立公園	
部落会	
伏見（ふしみ）	
プラトン	
フランス	

能率（のうりつ）

八

ハイキング

財経報(けいぽう)

バイナップル

正體(はだなゆ)

延繩捲揚機（まきあげ

バクテリヤ

八王子（はちおうじ）

八丈島（はちじょうじ

發電地帶

早かご

バサナ

バヤ

バラオ島

ドリヤン	十和田（とわだ）湖
トルコ	トンネル掘り
トロール	問屋（とんや）
ナイル川	【ナ】
ナイロン	
長崎縣	
中山道（なかせんどう）	
長野縣	
名古屋（なごや）	
中山道五十九次	
難波（なにわ）の津	
奈良（なら）	
なだれ	
奈良盆地	

苗代 (なわしろ)
南極 (なんきょく)
南北朝時代
南洋
男体山 (なんたいざん)
西陣織 (にしじんおり)
西宮 (にしのみや)
ニース
日光
日射 (にっしゃ)
日本海
日本海流
日本銀行
日本歴史の時代わけ
二百十日
二百一十日
日本橋

三 4 4 3 2 4 4 3 4 3 3 3 4 4 3 3 1 2 4 1
三 一 三 三 三 五 三 云 三 云 三 一 三 一 三 一 三 一 三 一 三 一

仁德(にんとく)	天皇	乳牛組合 ニューヨーク
熱帶地方	【未】	
熱帶低氣圧		
根雪(ねゆき)		
年鑑(ねんかん)		
粘土(ねんど)		
燃料(ねんりょう)		
直方(のうがた)	【】	
農業実行組合		
農業生活		
農村		
濃尾平野		
農はんたく兒所		

【く】

平安時代

ベーチカ

ベニシリン

ベルシア

【木】

方位

貿易（ぼうえき）港

貿易風

澎湖諸島（ポンフー）

防砂（ぼうさ）林

房州（ぼうしゅう）

紡績（ぼうせき）機械

放送局

防霜（ぼうそう）組合

防潮（ぼうちょう）林

防波堤（ぼうはてい）

紡績工場

放送局

防霜（ぼうそう）組合

防潮（ぼうちょう）林

防波堤（ぼうはてい）

無線電信

無線電信電話機

むろ

室町時代

【ヌ】

明治、

明治維新（いしん）

明治時代

明暦三年

メキシコ湾流

メバチ

免疫性（めんえきせい）

【モ】

模型（もけい）図

門司（もじ）

モツ

物日

桃山（ももやま）時代

3 1 1 4 3 3
二三 元 窓 呂 三 七2 1 4 3 1 3 3
元 呂 云 毛 卜 云 三4 3 4 1 1 1
交 義 重 呂 呂 四防風材
北越雪譜（ほくえつせっぶ）
捕鯨（ぼうい）
保健所（ほけんじょ）
捕鯨船
母船（ぼせん）
北海道澎湖諸島（ポンフー）
防砂（ぼうさ）林
房州（ぼうしゅう）
紡績（ぼうせき）機械
放送局
防霜（ぼうそう）組合
防潮（ぼうちょう）林
防波堤（ぼうはてい）ホップ
ボート—グーウィン
ボーランド
ボルトガル人
本州
本陣（ほんじん）3 4 4 1 2 2 4 3 4 4 4 3 3 3
一毛 二西 三西 四西 五西 六西 七西 八西 九西防風材
北極海
北國
ホップ
ボート—グーウィン
ボーランド
ボルトガル人
本州
本陣（ほんじん）マイクロフォン
前橋（まえばし）
牧（まき）の原3 3 1 二八
一毛 二西 三西 四西 五西 六西 七西 八西 九西丸の内
マンゴー^{マササワ}
マルコ||ボーロ^{マヨネーズ}
丸木船
マンゴスチン^{マングスチン}3 4 1 3 3 3
一〇 三 三 二 三 分4 4
穴 三矢作（やはぎ）川
屋敷林（やしきりん）
山風
山形（やまがた）縣
大和川（やまとがわ）
山梨（やまなし）縣
山の手
ヤリイカ
友禪染（ゆうぜんぞめ）
夕張（ゆうぱり）山脈
夕張町
郵便（ゆうびん）
遊牧茨田堤（まんだのつつみ）
三池（みいけ）炭田
三島（みしま）
南アメリカ
丸州
丸の内
マンゴー^{マササワ}
マルコ||ボーロ^{マヨネーズ}
丸木船
マンゴスチン^{マングスチン}1 4 2 1 3 3 1 1 4 3 3 4 1
二三 三三 二三 二三 二三 二三 二三 二三 二三 二三 二三 二三3 4 1 4 4 3 3 二九
一毛 二西 三西 四西 五西 六西 七西 八西 九西吉田兼好（けんこう）
寄席（よせ）
淀川（よどがわ）
夜見浜（よみがはま）
ヨーロッパ
ラウドスピーカー

社会科 小学校第五学年用
都会の人々—私たちの生活(二)
Approved by Ministry of Education
(Date Sep. 6, 1949)

著 作 者 文 部 省
發 行 所 東京書籍株式会社
發 行 者 東京都北区堀船町一丁目八五七番地
印 刷 者 東京書籍株式会社
代 表 者 山田三郎太
定 價 金 拾 六 円 六 拾 錢
昭和二十三年四月五日翻刻發行
昭和二十四年十二月一日修正翻刻印刷
昭和二十五年一月十五日修正翻刻發行
（昭和二十五年一月十五日文部省検査済）

羅針盤 (らしんばん)	ラジオ (ラジオ)	列島 (列島)
ラッセル車 (ラッセル車)	ラブ・ラドール海流 (ラブ・ラドール海流)	レンタゲン (レンタゲン)
陸稻 (りくとう)	露天 (ろてん) 挖り	六・三・三制 (ロシア)
陸風 (りくふう)	ローベルト・コッホ (ロシ亞人)	ローマ字 (ローマ)
利子 (りし)	ローム層 (ローム層)	ローラリ (ローラリ)
硫安 (りゅうあん)	ロンドン (ロンドン)	六・三・三制 (ロシア)
兩親と先生の会 (りょうしんとせんせいのかい)	露天 (ろてん) 挖り	露天 (ろてん) 挖り
綠地帶 (りょくちたい)	ローベルト・コッホ (ロシ亞人)	露天 (ろてん) 挖り
リンカン傳 (でん)	ローム層 (ローム層)	露天 (ろてん) 挖り
【レ】	若松 (わかまつ)	六・三・三制 (ロシア)
冷害 (れいさ)	脇本陣 (わきほんじん)	露天 (ろてん) 挖り
冷凍 (れいとう) 会社 (かいしゃ)	和田岬 (わだみさき)	露天 (ろてん) 挖り
冷房裝置 (れいぼうそうち)	わらぐつ	露天 (ろてん) 挖り
4 3 1 4 —モ	毛 (もう)	六・三・三制 (ロシア)
2 2 2 1 2 4 3 —モ 三 二 一 四 三 一	圓 (えん)	露天 (ろてん) 挖り
4 4 3 1 —モ	毛 (もう)	露天 (ろてん) 挖り
2 2 2 1 2 4 3 —モ 三 二 一 四 三 一	圓 (えん)	露天 (ろてん) 挖り
4 3 3 3 —モ	毛 (もう)	露天 (ろてん) 挖り
3 2 3 1 2 3 4 3 1 —モ 三 二 一 四 三 一	圓 (えん)	露天 (ろてん) 挖り
2 4 3 2 —モ	毛 (もう)	露天 (ろてん) 挖り

五年
赤坂史郎

赤坂

史郎